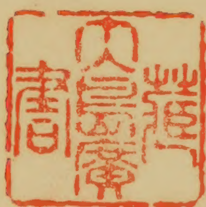
貝類手引草





平瀬與一郎著

貝類手引草

全

京都　平瀬介館發行

2



Spondylus regius Linné ($^2/_3$)

シヤウジヤウガヒ

1



Pleurotomaria beyrichii Hilg. ($^2/_3$)

オキナエビス

貝類手引草序

知友平瀨與一郎君、頃日、貝類手引草といふ一書を著はし、稿成るに及んで、序を予に徴せらる。凡そ、世界中の貝類は、總數五萬種と概算せらるゝを以て、品種の多寡よりいへば、動物界中、昆虫類に亞ぐべし。而して、本邦は、四面環らすに海を以てし、地形長蛇の如く、南北に跨りて、北は樺太の寒帶地より、南は臺灣の熱帶地に達するが故に、水陸共に貝類の豐富なることは世界無比にして、斯學を攻究せんとするものゝ爲めには、實に天與の邦土と謂ふべし。

曩に、明治十年、我が大學に動物學の專攻科を設置せらるゝにあたり、初めて其の教授の職に就ける恩師、ドクトル、モールス氏は、貝類學の專門家にして、廣く本邦の貝類を採集し、以て今日の動物學教室に附屬せる標本の基礎こ作せり。爾來、動物學は種々の方面に發展し、各科の專門家を輩出せしこ雖も、貝類學を專攻するもの極めて稀なり。君は、動物學者にあらざるも、非常の熱心を以て多年貝類の蒐集に力め、採集地の範圍は、獨り本邦に限らず、今は延いて朝鮮及び支那にまで擴張せられんこせり。標本の鑑定は、專ら斯學の大家、合衆國費府大學の教授、ドクトル、ピルスブリー氏の手に成りて、新屬新種の發見せられたるもの、實に數百の多きに達

せり。君は、斯業の爲めに莫大の資金を費やし、殆ご家產を傾くるに至れりご雖も、君の名譽は新屬種の學名ご共に、永遠に朽ちざるべければ、又以て自ら慰藉するに足るべし。

抑々一國に產する動物の種屬を調査するは、動物學發展の基礎にして、此の調査の不十分なる以上は、斯學應用の道も開けず、從つて生產業の發達は、期待すべからざるなり。然るに、分類學は勞力ご資力ごを要するこご多くして、その効果は却つて顯著ならず、所謂勞功相償はざるの狀あるが故に、學者は多くこれを捨てゝ、他に研究の項目を擇ばんごする意向を有し、又世人は分類の如き純正科學を迂遠無用の學問ごして、これを顧るもの鮮し、然り、而して、漫

に應用科學の不振を呶々するの風あるは、本末を過てるの甚しきもの
こいふべし。

平瀨君は、家産を抛ち、一身を委ねて至難の業に從事し、斯學の普及を圖り、先には月刊の介類雜誌を發行し、今、又、此の書を著述せられ、猶、將來に於いては平瀨介舘を建設して、所藏の標本を衆人の縱覽に供せんこするの計畫あり。君の社會に貢献せんこする志の篤くして、而かも、學に忠實なるは、余の常に敬服して措かざる所なり。

本書は、一小冊子に過ぎずこ雖も、最新の分類法に從つて、本邦産貝類の綱目を分ち、各科目の下には、有用なる實例を擧げて、一々

其の要項を附記せられたれば、初學者の爲めに無二の指針たるべきこと疑を容れず。且、邦文を以て貝類學を講述せる著書は、これを嚆矢となすべきを以て、本書は啻に動物學を修めんとする者の爲めのみならず、廣く斯學を世間に紹介する階梯と成りて、裨益する所鮮少ならざるべし。聊か所感を記して序となす。

明治四十二年仲春

弄貝生　岩川友太郎識

凡例

一本書は主として何人にも得易き普通種及實用貝類を以て編纂し、此れに最も著名なるもの若干を加へ、一般分類を示し以て初學者の手引草たらんことを期す。

一分類は現今歐米貝類學者間に採用せられつゝある最も進歩したる諸說を參酌したり。

一學名は務めて正確のものに從ひ、和名も諸書を參考して成るべく正確ならんことを期し、只だ已を得ざるもののみに新名を附したり。

一章魚類、烏賊類等をはじめとして蛞蝓類、ウミウシ、アメフラシ類等の如く、すべて貝殼を有せざるもの及研究困難なるものは概して之を省畧したり。

一圖畫は各科の代表としては、成るべく普通の種類を擇びて之を挿入し、且つ珍品又は大形種にして各自標本の備付困難なるもの及び說明を補ふに必要なる舌式類をも加へたり。

一各種の記載は各自標本と參照あらんことを期し、殼を主として動物を略し、成るべく通俗ならんことを務め只だ止むを得ざるものに限り解剖によりて其特徵を說きたればもとより非科學的の文字も尠からざるべし、讀者之を諒せよ。

一本書の採用せる分類は附表の如し。

一本書を編するに當り、理學士岩川友太郎、同志社教授加藤延年及び余が助手黑田德米の諸君は尠からざる援助を與へられたり、今諸君に謹んで謝意を表す。

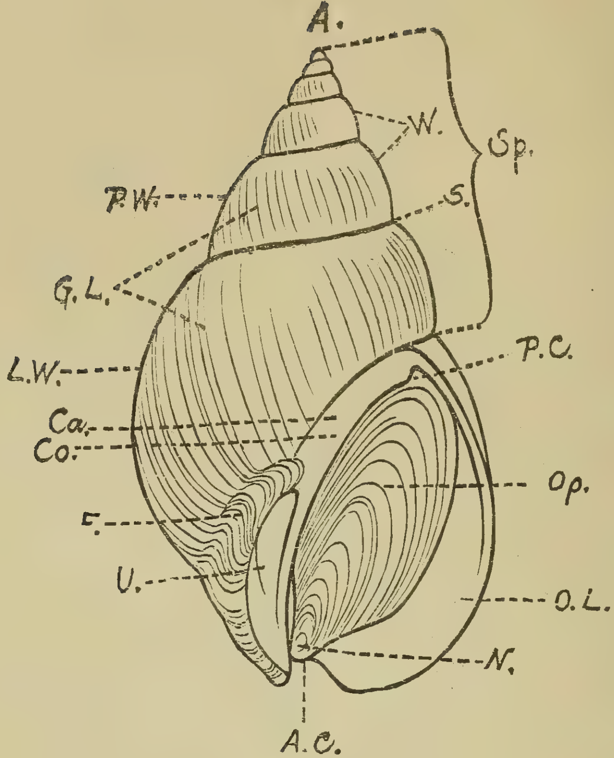
目次

Section. 區	Suborder. 亞目	Order. 目	Subclass. 亞綱	Class. 綱	Subdivision. 亞門	Division. 門
	Octopoda 八腕類	Dibranchiata 二鰓類		Cephalopoda 頭足類	Glossophora 有舌類	Mollusca 軟體動物
Phragmophora 閉角石類	Decapoda 十腕類					
Sepiophora 硬甲類						
Chondrophora 軟甲類						
Retrosiphonata 後管類	Nautiloidea 鸚鵡螺類	Tetrabranchiata 四鰓類				
Prosiphonata 前管類						
Retrosiphonata 後管類	Ammonoidea 菊石類					
Prosiphonata 前管類						
Toxoglossa 矢舌類	Monotocardia 單心耳類	Prosobranchiata 前鰓類	Streptoneura 扭神經類	Gastropoda 腹足類		
Rachiglossa 尖舌類						
Gymnoglossa 裸舌類						
Tænioglossa 紐舌類						
Ptenoglossa 翼舌類						
Rhipidoglossa 扇舌類	Diotocardia 双心耳類					
Docoglossa 梁舌類						
Bulloidea 泡貝類	Tectibranchiata 被鰓類	Opisthobranchiata 後鰓類	Euthyneura 直神經類			
Aplysioidea 雨虎類						
Pleurobranchoidea 一重貝類						
Siphonaroidea 菊花貝類						
	Ascoglossa 囊舌類					
Cladohepatica 分肝類	Nudibranchiata 裸鰓類					
Holohepatica 全肝類						
Thecosomata 有殼類	Pteropoda 翼足類					
Gymnosomata 無殼類						
	Basomatophora 無柄眼類	Pulmonata 有肺類				
	Stylommatophora 有柄眼類					
		Polyplacophora 多板殼類		Amphineura 雙神經類		
		Aplacophora 無板殼類				
				Scaphopoda 堀足類		
		Protobranchiata 原鰓類		Pelecypoda 斧足類	Aglossa 無舌類	
	Anomiacea 波間栢類	Filibranchiata 絲鰓類				
	Arcacea 魁蛤類					
	Mytilacea 淡菜類					
		Pseudolamellibranchiata 擬瓣鰓類				
	Submytilacea 亞淡菜類	Eulamellibranchiata 正瓣鰓類				
	Tellinacea 皿貝類					
	Veneracea 文蛤類					
	Cardiacea 鷄貝類					
	Myacea 大野貝類					
	Pholadacea 鷗貝類					
	Anatinacea 翁貝類					
		Septibranchiata 隔鰓類				

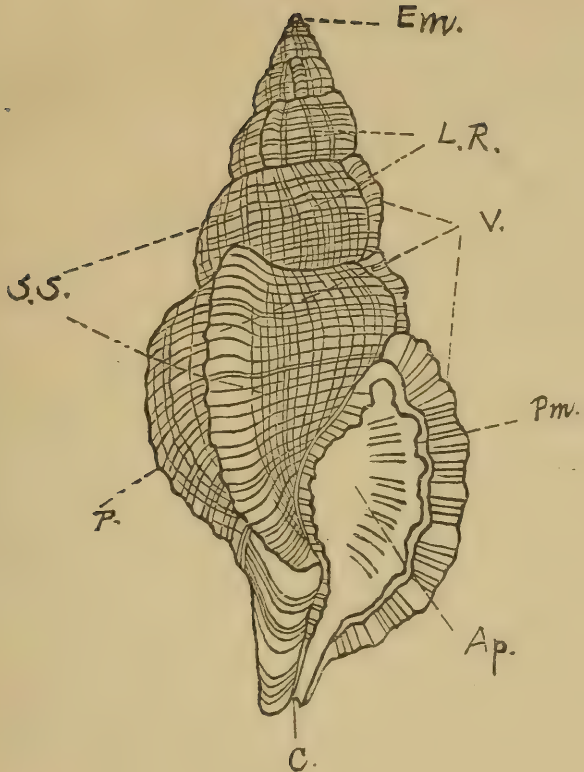
無板殼類

- Aglossa 無舌類
  - Scaphopoda 掘足類
  - Pelecypoda 斧足類
    - Protobranchiata 原鰓類
    - Filibranchiata 絲鰓類
      - Anomiacea 波間栢類
      - Arcacea 魁蛤類
      - Mytilacea 淡菜類
    - Pseudolamellibranchiata 擬瓣鰓類
    - Eulamellibranchiata 正瓣鰓類
      - Submytilacea 亞淡菜類
      - Tellinacea 皿貝類
      - Veneracea 文蛤類
      - Cardiacea 鳥貝類
      - Myacea 大野貝類
      - Pholadacea 鷗貝類
      - Anatinacea 翁貝類
    - Septibranchiata 隔鰓類

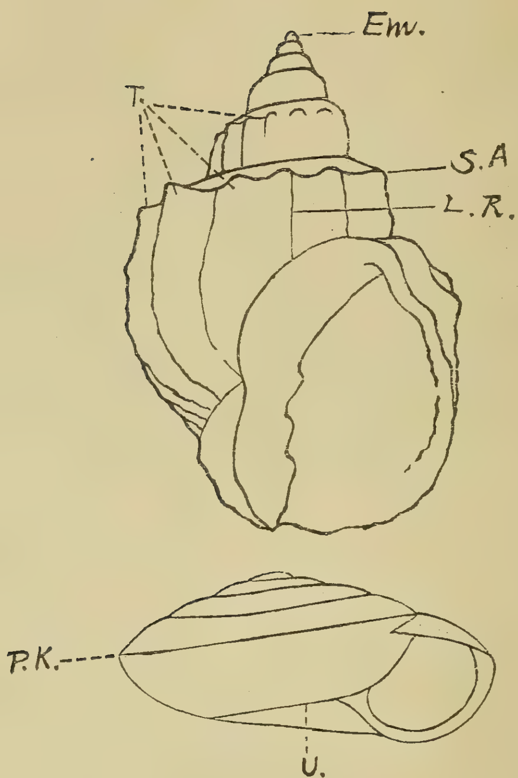
貝類部分の名稱用語



A.	螺頂又は殼頂
W.	螺層
P.W.	次體層
L.W.	體層
Sp.	螺塔
S.	縫合
U.	臍孔
F.	綳帶
Ca.	滑層
P.C.	後溝
A.C.	前溝
Op.	厴
O.L.	外唇
Co.	內唇
N.	核
G.L.	成長線



S.S.	C.	Pm.	P.	Ap.	V.
螺脉	水管溝	口緣	周緣	殼口	縱脹脈



Em. 胎殼又は原殼

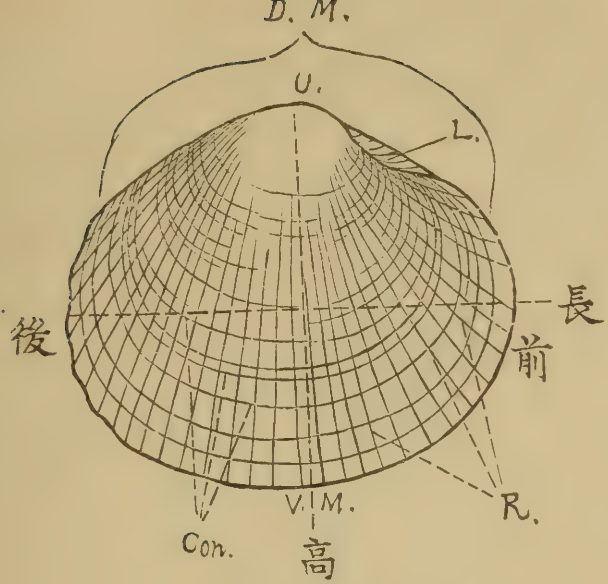
S.A. 肩角

L.R. 縦肋

T. 結節

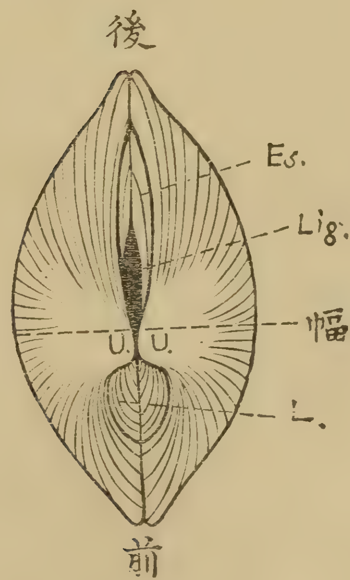
P.K. 周縁龍骨

U. 臍孔

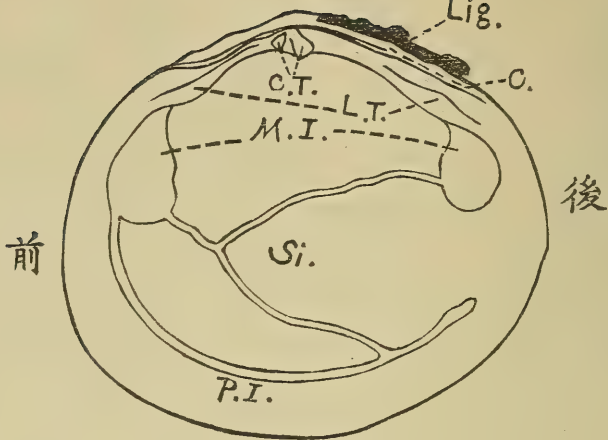


D.M. 背縁　V.M. 腹縁

Lig. 靭帯　L.T. 側歯



四



R.	放射脈又は線
Con.	渦脈又は輪脈
U.	殼頂
L.	前丘
Es.	後丘
C.T.	主齒
C.	軟骨
M.I.	肉痕又は肉柱痕
Si.	灣入又は灣
P.I.	套痕又は外膜線

貝類手引草

平瀨與一郎著

門　軟體動物　Division MOLLUSCA.

體は柔軟にして環節或は節肢なく、左右相稱をなし、肉質の足を用ひて移動し、體壁の一部は外套膜をなして概ね殼を分泌す、形狀、住所、習性等變化頗る多し、分ちて二亞門となす、有舌類無舌類是なり、有舌類は頭足類、腹足類、雙神經類及堀足類の四綱を含み、無舌類は斧足類の一綱を含む。

綱　頭足類　Class CEPHALOPODA.

體は頭部と胴部とに分れ、頭部に一對の大なる眼と多數の腕とを有し、胴部は概ね囊狀を呈し其内に內臟及鰓を納む、鰓の數により之を二鰓類及四鰓類に大別す。

目　二鰓類　Order **DIBRANCHIATA.**

此類は一對の鰓を有し殼を有するときは肉内に埋まり、顎は角質にして腕に吸盤を具へ、大抵墨囊を有す、本目を大別して八腕類、十腕類の二亞目とし後者はイカの類を含む。

第一圖



アフヒガヒ（ベラニイ氏）1/5

亞目　八腕類　Suborder **OCTOPODA.**

八腕を有し、**眞正**の殼なし、タコ科、タコブネ科等之に屬す。

タコブネ科　Family ARGONAUTIDÆ.

雌は一對の擴大せし背腕の端より分泌せられたる左右相稱をなせる殼狀の卵箱を有し、雄は之を有せず外觀よくタコに似たり、我國には二種を産す。

タコブネ　(*Argonauta hians* Solander)　小形にして卵箱は比較的に廣さ大きく灰褐色を帶び表面の肋粗くして少數なり。

アフヒガヒ (*Argonauta argo* Linné) タコブネよりも大形にして卵箱は比較的に廣さ狹く白色をなし、表面の肋細密にして外縁は深褐色を彩る。

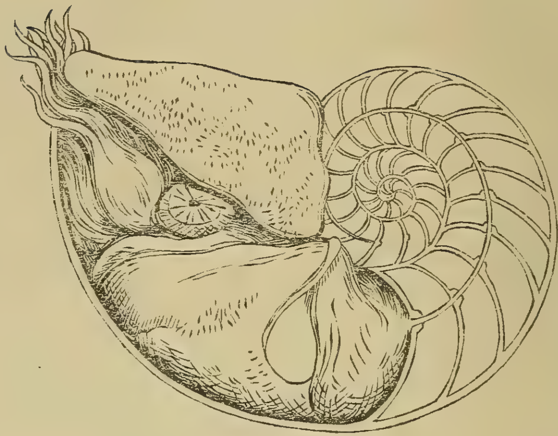
目 四鰓類 Order **TETRABRANCHIATA.**

四鰓を有し、菊石類及鸚鵡貝類の二亞目に分つ共に地質時代に繁榮を極め、化石として多く産出するも今は僅かに鸚鵡貝の一屬を存するのみ。

アフムガヒ科 Family NAUTILIDÆ.

頭に多數の腕を具へ腕に吸盤なく、また墨嚢を有せず體外に厚くして美麗なる左右相稱の殼を有す、現今地球上に生存せるもの四種、化石千餘種あり。

第二圖



アフムガヒ（ツオード氏） $\frac{1}{3}$

アフムガヒ (*Nautilus pompilius* Linné) 殼は大形平滑にして、內旋し、螺層少く、乳白色に褐色乃至紫褐色の焰狀脉を飾り、內層は黑色を呈す、內部に多數の隔壁ありて殼を數

房に分ち動物は最後の大房内に住し隔壁は外面凹み中央に小管を有し以て膜質の管を通す印度洋及南洋の産にして臺灣近海にも棲息すと云ふ。

綱　腹足類　Class GASTROPODA.

眼、觸角及齒舌を具へたる判然たる頭部を有し、筋肉質の廣き足を伸縮して匍匐し、殼は一枚にして大抵右卷の螺形を呈し種々の彫刻と彩色とを有し、稀に楯形又は皿形の殼を具へ或は全く裸體なるものなきに非ず、露出し或は外套下に覆はれたる鰓、または肺腔によりて呼吸し、消食管は屈曲して口の一側に終り、雌雄は異體或は同體なり、概して卵生にして僅少の胎生種あり、動物界にありては昆蟲類に次ぎて種類多く、只殼の美麗にして裝飾等に用ひらるゝのみならず、其應用頗る廣く、歐洲に於ては蝸牛類の如き食用に供せらるゝことあり、アハビ及サヾエは往々眞珠を含み、歐米人はソデガヒ類及タウカムリ類等より「カメオ」を製し、ホチガヒ類及レイシガヒ類等よりは曾て紫色の染料を採りたることありき。

有肺類目 Order PULMONATA.

此類は總て空氣を呼吸せる陸及淡水產無厴貝類を含み（イソアハモチは海産なり）肺腔は鰓に代りて呼吸を營み、大抵螺殼を有し（ナメクジ類の如く全く殼を有せざるものもあり）雌雄同體にして、濕氣多き暖地に多きも殆んど地球上到る所に產し、形狀習性多樣にして盡し難し。

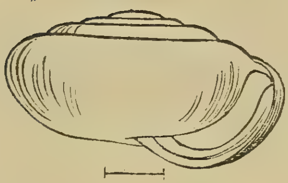
亞目　有柄眼類　Suborder **STYLOMMATOPHORA.**

陸產にして二對の觸角を有し、伸縮自在なる上對觸角の末端に眼を有す。

ベツカフガヒ科　Family ZONITIDÆ.

殼は半透明にして薄く鼈甲色を呈し概して扁平なる小蝸牛形をなし臍孔を具へ、殼口緣は管單にして銳し、本邦隨所の濕地に產し種類極めて多し。

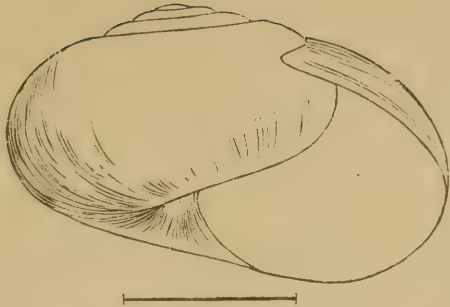
第三圖



エンザガヒ（原圖）

エンザガヒ (*Hirasea sinuosa* Pils.)　殼は微少にして背面は圓坐形を呈し、口緣の內方少しく厚し、本種の屬するエンザガヒ屬中には他に十餘種を含み共に微小にして小笠原島の特產なり。

第四圖



ベツカフガヒ（原圖）

第五圖



ヲカモノアラガヒ（原圖）

ベツカフガヒ (*Macrochlamys perfragilis* Pils.) 殼質薄く半透明にして光澤を有し淡黃角色を呈し、直徑六分餘の小蝸牛形をなし、琉球諸島に產し、本邦產本科中の最大なるものなり。

キビガヒ (*Kaliella multivolvis* Pils.) 殼質薄く微小なる低圓錐形をなし、淡褐黃色を呈す本邦中部に多く產す。

ヲカモノアラガヒ科　Family SUCCINIDÆ.

殼形斜にして往々扁平形をなし、螺層少く、殼質透明にして薄く、濕地に住す、本邦に六種を產す。

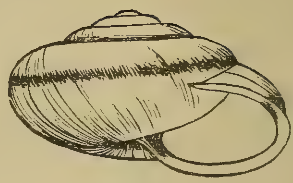
ヲカモノアラガヒ（岩川新稱）(*Succinea lauta* Gld.) 薄質透明にして螺層は急に增大し、體層殼口共に大きく、殼形は淡水產のモノアラガヒに酷似し、石間濕地等に棲息す。

カタツムリ科　Family HELICIDÆ.

此科は現生貝類中の最も種類多き科にして、殼形多樣なりと雖も唇の厚くなりて反曲せる一種獨特の殼口を有し往々其内に

カタツムリ（原圖）

第六圖



齒狀の障碍物を具へ、動物は足溝を缺ぎ、全く殼内に退縮するを得、これまで本邦に於て採集せられたるもののみにても凡そ二百種あり。

カタツムリ (*Eulota callizona maritima* G. & P.) 陸產貝類の最も普通なるものゝ一にして、形狀習性等は總ての人の悉知するところ、濕地に住し、雨後に出で、夜間に活動し二對の觸角を有し、嗅覺鋭く長角の端に目を有すれども極めて近眼なれば之を切斷するも別に困難を感ぜざるが如く、後には其部を再生す雌雄同體なれども他の個體と交接して產卵し、癖なく乾燥に遇ひ或は冬眠する時は白膜を生じて殼口を塞ぎ、筋力強く、余の實驗によれば一匁五分の蝸牛よく三十五匁の碁石を引く、西洋にては或蝸牛類を食用に供し或は藥として服用することあるも是れ寧ろ異例に屬し、我國にては只兒童の玩具となり詩歌俳句の詠題となるに過ぎず、本種は四國、中國、近畿等に最も普通にして他に六亞種を有す。

ミスヂマイマイ (*Eulota peliomphala* Pfr.) 本種は關東方面に最も普通なる蝸牛の一にして前種よりも扁平大形にして、三條の栗色帶を繞らせり、變種多し。

ヒトスヂマイマイ (*Eulota luhuana* Sowb.) は九州に產し、淡黃色にして大抵一條の狹き栗色帶を繞らす。

ヒダリマキマイマイ (*Eulota quæsita* Desh.) 前の二種よりも大形にして稍や高く左卷なるを以て直に區別することを得べし、奧羽より東北地方に最も普通なり。

チヤイロマイマイ（新稱）(*Eulota submandarina* Pils.) 前の三種よりも小形にして厚く、濃色なり、往々周緣に一條の褐色帶を繞らす、隅南諸島に普通なり。

オナジマイマイ (*Eulota similaris* Fér.) 殼は直徑五六分の小蝸牛形にして淡黃色を呈し往々栗色の一狹帶を繞らす、本邦隨所に產し其分布極めて廣くして遠く淸國、南米及亞弗利加に及べり。

ウスカハマイマイ (*Eulota sieboldiana* Pfr.) 殆んど球形をなし、薄質透明、肉に斑點を有し、無數に群生して菜園に大害をなす。琉球に產する **オキナハウスカハマイマイ** (*E. despecta* Gray) は土人食用に供すと云ふ。

オホケマイマイ (*Eulota vulgivaga* S. & B.) 碁石形にして、臍孔大きく、周緣に龍骨を有し、新鮮なる標品にありては其龍骨に茸毛を密生せり。

ヒルゲンマイマイ (*Trishoplita hilgendorfi* Kob.) 殼形チヤイロマイマイに似て小形淡色

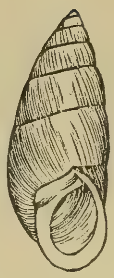
薄質なり、伊吹山上等にありては矮樹の枝葉等に無數附着せるを見る。

オキナハヤマタカマイマイ (*Ganesella largillierti cosmia* Pils.) 本種はコシタカマイマイ屬に屬し、前記の蝸牛類よりも螺塔高く、殼質薄く、臍孔微小にして、二三條の栗毛帶を繞らす、本種は琉球に産す。 **ニホンマイマイ** (*G. japonica* Pfr.) は中部日本に普通なる蝸牛にして淡黃色を呈し帶を有せず。

カタマイマイ (新稱) (*Mandarina mandarina* Gray) 螺塔はオキナハヤマタカマイマイよりも抵く、前記の他の蝸牛類よりも高し、殼質厚く、臍孔なく、汚肉色の地に廣狹濃淡數條の栗色帶を繞らす、小笠原の特産なり。

サナギガヒ科 Family PUPILLIDÆ.

殼形微小にして蛹形をなし螺層多く、螺塔鈍く、殼口小さくして齒或は襞によりて更に狹窄せらる、數屬數十種を含みキセルモドキ屬の他は皆微小なり。



第七圖 キカイキセルモドキ（原圖）$\frac{3}{2}$

キカイキセルモドキ (新稱) (*Ena hirasei* Pils.) 蛹形にして、短きキセルガヒ狀をなし、右卷にして、口内に殼板を有せず、琉球より大島群島に産す。

キセルガヒ科 Family CLAUSILIIDÆ.

殼形狹長左卷にして煙管形をなし種類頗る多く殼口内に閉瓣及種々の襞を具へ、分類は多くこれによるを以て頗る困難なり。

オホキセル（新稱）(*Clausilia martensi* Herklots.) キセル貝類中の最大種にして煙管形をなし螺層多く、殼口小さく、口內に諸種の殼板と閉瓣とを有し、門戸を狹窄して防禦に供す、東海道及四國に亘り產す（總て本邦產のキセルガヒ類は左卷にして殼板の形狀等によりて分類するを常とす）。



第八圖 ナミキセル（原圖）

ナミキセル（新稱）(*Clausilia japonica* Crosse) 本州、九州及四國に最も普通なるキセルガヒにして、前種よりも小さく、螺層多く、口內の殼板銳し。

ナミコキセル（新稱）(*Clausilia tau* Bttg.) 本州、四國、九州及淸國等に普通なる小キセルガヒにして、朽木、腐葉の間に棲息す、長五六分。

亞目 無柄眼類 Suborder BASOMATOPHORA.

眼は大抵觸角の底部に存し、收縮せず、雌雄生殖孔は相隔離し、水陸兩棲を常とす。

ヲカミミガヒ科　Family AURICULIDÆ.

殼質堅固にして螺狀をなし、螺層往々扁平にして、殼軸に齒を有し、外唇にも往々齒あり、主として熱帶產なり。

第九圖



ヲカミミガヒ（原圖）

ヲカミミガヒ（新稱）(*Auricula reiniana* Kob.) 殼は一寸內外の頻海陸貝にして、質厚く、栗褐色の表皮を被り、內唇に二三の横襞を有し、口內白色なり、殼口は耳朶狀をなせり。

シイノミミミガヒ（新稱）(*Cassidula labrella japonica* Pils. & Hir.) 形前種に似て短形細小、口內褐色なり。

第十圖



モノアラガヒ（原圖）

モノアラガヒ科　Family LYMNÆIDÆ.

殼質薄く、角色を呈し、大抵螺狀をなし、殼口は簡單にして圓く、唇銳く、動物は全く殼內に退縮することを得。

モノアラガヒ (*Lymnæa japonica* Jay) 殼形ヲカモノアラガヒに酷似せるも、短形濃色にして殼口廣く、淡水に產し、往々倒に水面を匍匐するを見る、本邦に三種を產す。

ヒラマキミヅマイマイ（岩川新稱）(*Planorbis compressus japonicus* Marts.) 小形扁平の淡水貝にして螺層平坦、一見上下を辨じ難し、本邦各地の沼池に產し琉球諸島より臺灣に及ぶ。

目　後　鰓　類　Order OPISTHOBRANCHIATA.

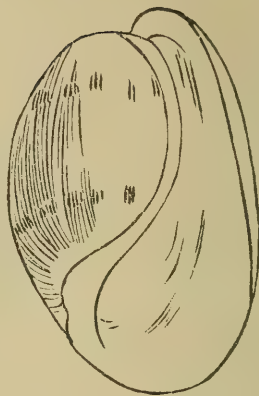
總て海產にして、往々殼を缺ぎ、大抵靨を有せず、殼形種々にして螺狀より皿狀或は板狀に至り、全く露出せるものより全く埋沒せるものに及び、固き殼質より膜質に至る、鰓は心臟の後方にありて背の後部中央に位す、往々外套腔を缺ぎ、之れあるときも開放せること多し、地質學の證明によれば此類は前鰓類よりも後に生ぜしものなるが如し。

亞目　被　鰓　類　Suborder TECTIBRANCHIATA.

鰓は外套膜によりて保護せられ、多くは殼を有すれども、往々殼の發育不完全なるか或は之を缺げることあり。

ナツメガヒ科　Family BULLIDÆ.

殼質堅固卵形をなし、殼は內旋して全く露出し、螺塔の代りに凹穴あり、平滑にして光澤を有し、只ナツメガヒの一屬を有するのみ。


第十一圖　ナツメガヒ（原圖）


第十二圖　キクノハナガヒ（原圖）

ナツメガヒ (*Bulla vernicosa* Gould) 棗形をなし葡萄色の地に淡色の雲點と黒斑の三帶とを有し螺塔凹みて小孔狀をなし、殼口は上部狹く下部廣く長形にして頗る奇異の觀を呈す、大さ一寸四五分。

キクノハナガヒ科　Family SIPHONARIIDÆ.

殼は皿形にして鰓は全部或は一部變化して肺嚢となり肺孔は一小葉にて閉塞せられ、齒は極めて小なり、此類は以前有肺類中に編入せられしも研究の結果後鰓類の變形者なることを證明せられたり。

キクノハナガヒ (*Siphonaria sirius* Pils.) 殼は前鰓類中のウノアシに酷似せるも放射脉の一ヶは稍や大きく、動物は之より水管を出せり。

亞目　翼足類　Suborder **PTEROPODA.**

此類は太洋面に浮游し、足の側部は變形して鰭狀を呈し、足神經球よりの神經其中に分

派す、近時の研究により腹足類の變形して太洋生活に適應し、相稱的の外觀を呈せるものなることを明にするに至れり、之を大別して、有殼類（THECOSOMATA）及無殼類（GYMNOSOMATA）の二とす。

カメガヒ科　Family CAVOLINIIDÆ.

鰓大きく、鰓房は腹面に位し、殼は薄き角質をなし圓錐形にして螺旋せず、或は圓く或は角を有し、胎部判然し、往々分離したる二板より成る。

此類は彩色美麗にして西洋にては之を海蝶と稱へ其翼を鼓して游泳する狀恰も胡蝶の空中に舞ふが如し。

カメガヒ（*Cavolinia gibbosa* Rang）、**ヒラカメガヒ**（*C. trispinosa* Lesueur）、**ナガヲカメガヒ**（*C. longirostris* Lesueur）、**ウキヅツガヒ**（*Cuvierira columnella* Rang）等之に屬す。

第十三圖



ヒラカメガヒ（トライオン氏）（放大）

目　前鰓類　Order PROSOBRANCHIATA.

有鰓貝類の大部を含み大抵海產にして螺狀殼を具へ、心臓の前方に一ケの鰓を有し、頸部に一對の觸角あり、雌雄異體なり。

亞目 單心耳類 Suborder **MONOTOCARDIA.**

心臓は一心耳一鰓(左側)を有し、鰓は單櫛狀を呈し、外套と癒合し、腎臓も一ケなり。

イ (矢舌類) (**TOXOGLOSSA**).

第十四圖



矢舌類の齒式タガヤサンミナシ (原圖) (放大)

齒大きく其式は 一・〇・一 (中齒なく側齒一對を有す) 食道に大なる一ケの毒腺を具へ、動物は肉食海產なり (齒式上圖參照)。

タケノコガヒ科 Family TEREBRIDÆ.

殼は筍形にして螺塔高く、螺層極めて多く、殼口小さく、前方に切込を有し、内唇に襞なく厴は角質なり、主として熱帶に產し、彩色美なり、本邦に產するもの四十種に及ぶ。

リウキウタケ (*Terebra subulata* Lam.) 長四五寸、琉球等の暖海に產し、長筍形をなし螺層二十餘階に及び、淡肉色の地に栗黑色の方斑を二列に繞らし、體層には三列あり、殼口小さし、古人は同名の下に *T. maculata* Linné をも置きたり形狀大形、重厚、色彩淡色なり、余は「**オホリウキウタケ**」と稱す。

第十五圖



リウキウタケ（原圖）$\frac{1}{2}$

第十六圖



クロミナシ（原圖）

キバタケ (*Terebra crenulata* Linné) 長三四寸、琉球臺灣等に產し、リウキウタケよりも太く短く、縫合下に結節を繞らし、結節間及其下に褐色の細點を繞らす、體層には更に該點の二列を加ふ。

イモガヒ科　Family CONIDÆ.

殼質厚く、圓き倒圓錐形或は芋形をなし、螺塔低く或は扁平にして、殼口狹長、兩唇直く且つ平行し種類頗る多く、鋭齒を具へ毒を有し嚙付きて敵を防ぐものあり、本邦に產するもの五十餘種に及ぶ。

クロミナシ (*Conus marmoreus* Linné) 長凡二寸

五分、南方の海に産し、倒圓錐形をなし、螺塔極めて低く結節を有し、殼口狹長にして、白地に黒色の網目紋を飾れり。

マダライモ (*Conus hebræus* Linné) 長一寸五分内外、暖海に産し、小芋形をなして脹れ白地に五列の黒色方形斑を廻らせり。

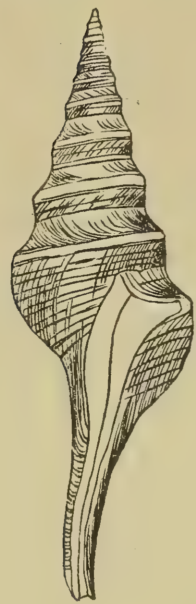
ニシキミナシ (*Conus striatus* Linné) 長三寸、體層少しく脹れ、肩部は淺くして廣き溝をなし、白地に葡萄色の雲を有す、産地琉球諸島。

クロザメモドキ (*Conus eburneus* Hwass.) 長二寸内外、大島琉球等に産し、短き倒圓錐形をなし、白地に十數列の粗らなる小方形點を繞らし、底に六七行の螺溝あり。

クダマキガヒ科 Family PLEUROTOMIDÆ.

殼形ナガニシ類フトコロガヒ類等に似るも縫合附近の外唇上に深き切れ込みあるにより直ちに識別することを得べし、解剖上より言へばイモガヒ類に酷似し、微細なる種に富み本邦にも數十種を産す。

第十七圖



クダマキガヒ（原圖）

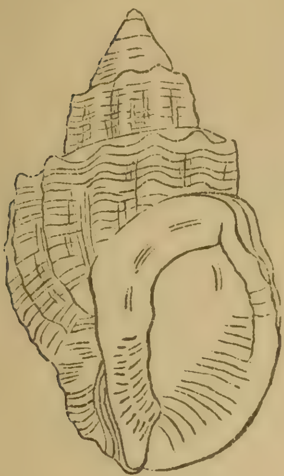
クダマキガヒ (*Pleurotoma leucotropis* Ads. & Rve.) 長一寸五分、瀬戸内海に多く産し、紡錘形をなし、螺塔及肩角高く、外唇に切れ込みあり帶黄色をなす。

シヤヂク (*Drillia jeffreysi* Smith) は長二寸許、中部日本に産し、水管溝短く、表面に粗き縱襞を刻す。

コロモガヒ科 Family CANCELLARIIDÆ.

吻短く大抵齒舌を缺ぎ、殼は卵形を呈し、内唇に強襞を刻し、靨を有せず、コロモガヒの一屬を含む。

第十八圖



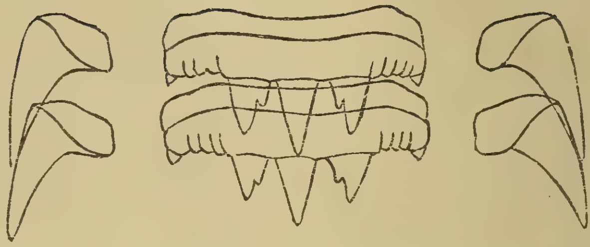
コロモガヒ(原圖)

コロモガヒ (*Cancellaria spengleriana* Desh.) 殼面に縱肋及螺脈を刻し、肩角鋭く短刺狀の突起を具へ淡褐色にして肩部の所々に栗斑を有す。

ロ (尖舌類) (RACHIGLOSSA.)

吻長くして伸縮性を有し、水管分離し、齒舌は緣齒なく、往々側齒を缺ぐ、齒は強尖を有し、殼は全然外在を常とす。(齒式第十九圖參照)

第十九圖

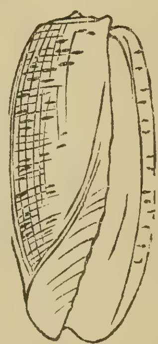


尖舌類の齒式　レイシ　（原圖）（放大）
（*P. bronni* Dkr.）

マクラガヒ科　Family OLIVIDÆ.

殼は磁質を呈し、表皮なく、殼軸、螺塔及縫合は多少滑層に覆はれ、殼口の前方に斜めの切込みあり。

第二十圖



マクラガヒ（原圖）

マクラガヒ（*Oliva mustellina* Lam.）長凡一寸二三分、中部日本に產し、略ぼ圓柱形をなし、螺塔低く、表皮及厴を缺ぎ琺瑯質を被り、茶色の地に密なる電光縱線を書き、殼口狹長にして殆んど殼の全長に等しく著しき綳帶を具へ、口內は美麗なる菫色をなす。

ジユドウマクラ（*Oliva irisans* Lam.）長凡二寸、マクラガヒの二倍に達し南部日本に產し、帶黃色の地に粗らなる栗色の電光縱線を書き、口內は柑色を呈し頗る美麗なり。

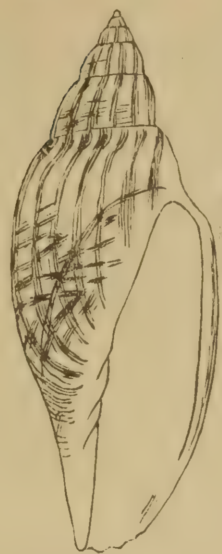
ホタルガヒ（*Olivella fortunei* Ads.）は長六分餘、本邦太平洋沿岸に產し、紡綞形をなし、白色の地に不規則なる栗色の縱折線を書き、縫合下に帶をなし、角質の厴を有す。

ヒタチオビ科　Family VOLUTIDÆ.

殼質厚く長卵形を呈し、内唇に斜襞を具へ、殼口の前方に切込を具へ、大形者は靨を有せず、稀品多く、美麗にして高價なり、本邦に四種を產す。

ヒタチオビ (*Voluta megaspira* Sowb.) 長四五寸ばかり、美麗にして標本稀なるを以て頗る高價なり、地球上に知られたるヒタチオビ屬中の種類の八割はセイロン島とニユージーランド島と我國とを三點として畫かれたる三角形の中に產し、歐洲には之を見ず。

第二十一圖



ヒタチオビ（原圖）　½

フデガヒ科　Family MITRIDÆ.

殼は筆頭形にして、螺塔高く、螺頂尖り、内唇の襞は後者最大なり、（ヒタチオビにありては前者最大なり）種類多し。

テウセンフデ (*Mitra episcopalis* Linné.) 長凡四五寸、短くして脹れたる畜形をなし、南日本に產し、白地に大小方形の帶黃赤色の斑點を繞らし、殼口狹く、外唇に小齒、内唇に

四條の強襞を具へ、前後溝及綳帶を有す。



第二十二圖 テウセンフデ（原圖）$\frac{1}{2}$

ヤタテガヒ (*Mitra scutulata* Lam.) 殼は紡綞形をなし、長一寸四五分、螺脈及生長線を有し、灰栗色にして種々の白點白斑を雜へ、淡黃色の薄き表皮を被る、主として南方の產なり。

ハマヅト (*Turricula exasperata* Gmel.) 殼は一寸内外にして琉球附近に產し、表面に美麗なる布目狀の彫刻を有し更に縱肋を具へ肩角あるを常とす、乳白乃至灰色にして體層に二條、他層に一條の廣き栗色帶を繞らす、此類は砂中に埋棲し、只夜間にのみ表面に匍出すと云ふ。

イトマキボラ科 Family FASCIOLARIIDÆ.

殼は紡綞形をなし、外唇薄く、縱脹脈を有せず。

ナガニシ (*Fusus perplexus* Adams) 殼は長き紡綞形をなし、長凡五寸に達し、螺塔水管溝共に頗る長く、螺層脹れ、縱肋は上層にありて著しく肩部に隆起を作り、又密接せる

大小の螺脈を繞らす、白質にして汚黄色の表皮を被り、其肉は食用に供せらるゝも、其卵嚢は海酸漿と稱して女子の玩弄に供せられ、稍や高價に販賣せらるゝを以て、或地方にては之を漁獲することを止め、以て卵嚢の增獲を圖ると云ふ。

イトマキボラ (*Fasciolaria trapezium* L.) 長凡五寸、南日本に產し、肩角上に大結節を列し、頂上より見下すときは梯形に近し、其肉は食することを得。

第二十三圖



イトマキボラ（原圖）　$\frac{1}{2}$

リウキウツノマタ (*Latirus polygonus* Gmel.) は重厚なる紡綞形をなし、六七條の大なる縱肋を有し、肩部に結節を具へ、柑褐色にして、縱肋は栗色を呈し、口内は汚黄色なり、長三寸、本邦南部に產す。

ムラサキツノマタモドキ (*Peristernia nassatula* Lam.) 殼は長一寸二三分、美麗なる縱肋及螺脈を有し、殼口狹く淡黄褐色にして、口内は淡紫色を呈す、琉球地方に產す。

オニコブシ科　Family TURBINELLIDÆ.

殼質重厚にして紡錘形をなし、水管溝は稍や長くして少しく反曲し、靨は角質鈎狀にして頂核を有す。

第二十四圖



オニコブシ（原圖）2/3

オニコブシ (*Vasum ceramicum* Linné.) 殼は堅固なる紡錘形をなし螺塔は體層よりも少しく短く隔りたる螺肋上に鋭くして大なる刺狀結節を有し、肩角上の結節は殊に大なり、肋間更に大小の螺脈を繞らし、淡褐色の稍々厚き表皮を被り、帶黃白色の地に栗黑色の雲影ありて不規則なる廣き縱橫帶をなし、口内は帶白色なり。

テングニシ (*Hemifusus ternatanus* Gmel.) 長六七寸、中部日本に產し、紡錘形を呈し殼口の長さは螺塔の二倍以上に達し、汚黃褐色の有毛表皮を被り、內外共に汚肉色なり、肉は美味にして、六七月頃產卵し、其卵囊を軍配酸漿と稱し、女兒の玩具に供す。

エツチウバイ科　Family BUCCINIDÆ.

水管稍長く、眼は觸角の外底部にあり、殼質厚く紡錘形を呈し、表皮を被り、水管溝は長短一定せず、蓋は角質にして、其核の所在も亦一定せず。

一、**エゾボラ** (*Chrysodomus despectus* Linné) は北海に產し、長凡五寸、質重厚、多少肩角を具へ、數狀の不規則なる螺肋を繞らし、肋間には密に細脈を刻し、局部に葉狀縱襞を起すことあり、殼口は大きく、表面は汚褐色を呈し、口內は柑色又は白色なり、產地により形狀に頗る變化あり。**ヒメエソボラ**(新稱)(*C. arthriticus* 'Val.' Bernardi) は小形にして、螺塔や丶高く、肩部に大なる結節の一列を繞らすことありて螺脈は大抵不明瞭なり、表面は帶紫褐色乃至帶肉色にして口內は帶紫褐色又は柑色を呈す、北海の各海、陸前常陸等にまで產し、長凡三寸。**エゾボラモドキ** (*C. intersculptus* Sowb.) は日本海に產し、螺塔高く質や丶薄く、全面に大小の螺脈を繞らし、體層に於て凡十七八條を數へ、其肋間更に五六條の細脈を刻す、一樣なる帶黃白色にして、時として口內は柑色を呈す、長凡四寸乃至五寸に達す、共に肉は食すべし。

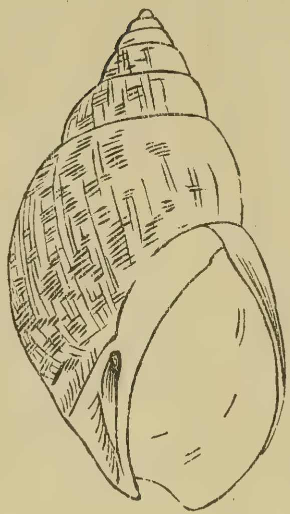
ミクリガヒ (*Siphonalia cassidariaeformis* Reeve.) 長一二寸、中部日本及韓國に產し、嘴反曲し、彫刻多樣にして、彩色一定せざれども概して柑色の地に栗色及白色の帶及斑點

を有せり、其肉は食用となすことを得。

イツニナ (*Euthria ferrea* Reeve) 長一寸三四分、中部日本、韓國等に產し、形狀カハニナに似て平滑なり。

ノシガヒ (*Engina mendicaria* Linn.) 殼は短紡綞形を呈し、黑白交互の横帶を繞らし、曖昧なる縱横襞あり、長凡五分、南日本に產す。

第二十五圖



バイ (原圖)

エッチウバイ (*Buccinum striatissimum* Sowby.) 一名**カガバイ**とも稱し、殼質厚く卵圓錐形をなし螺層脹れ、絹目狀の縱横線を刻し、殼口は半圓形を呈し前溝淺くして短し、表面は汚白色なれども口內は光澤ある磁白色なり、長三寸五分、日本海に產し食用に供す。

バイ (*Eburna japonica* Reeve) 殼は略ぼ卵形を呈し、螺塔は圓錐形をなし、大さ略ぼ鷄卵に等しく、螺頂尖り、螺層脹れて圓く、微肩角を有し、白質にして縫合下に紫褐色の縱斑を列し、他部には不規則なる同色の細點を密布し、體層周緣にありては該斑紋は著しく大形に

して曖昧なる一帶をなし、口内は白色にして表面の斑紋を透視し、臍孔は小にして深し、肉は食用に供し、殼は古來バイ獨樂を作るを以て有名なり。

ヨフバイ科　Family NASSIDÆ.

殼は卵形をなし、概して尖り、殼口底に切れ込み或は短くして反曲せる水管溝あり、内唇は滑層を有し、厴は角質にして、動物の足は大抵二小尾に終れり。

イボヨフバイ (*Nassa coronata* Brug.)　殼質厚く、白色乃至栗色を呈し、淡色なる標品には暗帶、暗色標品には淡帶を繞らし、螺塔小さく上部の數層は縱肋を有し、外唇外に縱脹脈を具へ他は概して平滑なり、内唇の滑層厚く且つ擴張し、外唇縁に微齒を具へ、口内の螺脈著しく、表面の中央帶を透視せること多し、長七八分、南日本に産す。

第二十六圖



アラレガヒ（原圖）

カニノテムシロ (*Nassa leptospira* A. Ad.)　殼は椎實大にして少しく壓扁せられたるが如く、微駝背を示し、密縱肋と微螺溝を刻し、滑層著しく發達し、殼口狹く蟹螯狀の外觀を呈す、表面は帶黃灰色にして、滑層は帶黃色なり、亦南日本の産なり。

ムシロガヒ (*Nassa livescens* Philippi.) 長六七分ばかりの小さき貝にして、粗き縦横の肋を刻し莚目様の外觀を呈す、帶白色にして背に褐色の二帶あり。

アラムシロ (*Nassa festiva* Powis.) は彫刻粗く螺塔高く、肋間栗色を呈し。**アラレガヒ** (*N. gemmulata* Lamarck.) は大形にして脹れ、彫刻粗く帶黄白色に褐色の雲紋あり。**アハムシロ** (*N. albescens* Dunker) は卵形をなし鑢狀の彫刻を有し、白色にして頂部は暗灰色を呈す。

フトコロガヒ科 Family COLUMBELLIDÆ.

殼は小卵形をなし、表皮を有し、螺塔短く、內唇は齒狀を呈し、外唇厚く、齒を有し、靨は極小なり。

マツムシ (*Columbella pardalina tyleri* Gray.) 長五六分ばかり小貝にして中部及南部日本に產し、紡錘形をなし、肩角なく、殼口狹く外唇に齒を具へ、黃褐色にして、縫合下に栗色を列したる白帶を有し、口內は白色なり。

ニナバイ (*Columbella dunkeri* Tryon.) 長三分ばかりの小螺にして海濱に多く產し、波浪に晒され紅、紫褐色等の美彩を顯はし海岸の砂中に混在す。

フトコロガヒ (*Columbella versicolor* Sowb.) 長凡五分、中部及南部日本に産し、肩角高く、螺肋は橄欖色と白色とを交互し、所々に褐色を彩り、肩部白く、大なる栗色斑を交へ小紋様の外觀を呈す。



第二十七圖

フトコロガヒ(原圖) 2/1

ホ子ガヒ科 Family MURICIDÆ.

殼質堅固にして塔狀を呈し、前溝を有し、縱脹脈を具へ、性貪食なり、此科中には牡蠣の飼養塲に大害をなし、或は紫色の染料を出すものありと云ふ。

ホ子ガヒ (*Murex tenuispina* Lam.) 西洋では女神の御櫛と稱へ、南日本に產し、嘴長くて二三寸に達し三方に長刺を出し、外觀魚骨に似たり、是れ多分保護の器ならん。**アクキガヒ** (*M. troscheli* Lischke) は槪してホ子ガヒよりも大形重厚にして刺數少く、表面に褐色線を繞らす。

キエボラ (*Murex brevifrons* Lam.) 中部日本の沿岸に產し、長二三寸にして刺は葉狀をなし、外唇に一ヶの大なる牙あり、其肉は食することを得。

第二十八圖



テングガヒ（原圖）$\frac{1}{2}$

テングガヒ (*Murex ramosus* Linné) は南日本に産し、長六七寸に達し、白色にして堅固なり。**ガンゼキボラ** (*M. adustus* Lam.) も亦南日本に産し、小形黒色にして其刺密集せり。

アカニシ (*Rapana bezoar thomasiana* Crosse) 殼質厚く、獨樂形をなし、長さ四五寸に達し、螺層に結節を有し、殼口大きく鮮紅色を呈す、淺海に產し、肉食にして其肉美味なり、卵囊は長刀狀をなし俗に長刀酸漿と稱す。

テツボラ (*Purpura rudolphi* Lam.) 殼質重厚、螺塔低く、體層極めて大きく、表面は鐵黑色にして、絲狀螺溝を刻し、體層に五六條、螺層に二條の黑螺肋を繞

らし、肋上所々に白斑を點す、口内は帶青白色にして肉色の螺脉を有し、其端は齒狀をなす

ホリスヂテツボラ (*P. persica* Linné) は著しく大形にして螺塔更に低く、名の如く螺肋細く且つ多數にして、黑白交互の點線をなす、共に南方の產なり。

レイシ (*Purpura tumulosa* Reeve) 中部日本に產し、長さ一二寸、表面に結節多く、外唇に齒なし、其外套膜には一種の辛味を有す。

テツレイシ (*Purpura hippocastaneum* Lam.) は本邦南部に產し、長一寸前後、重厚にして、強き結節を有し、表面は黑色を呈し、帶白色の縱斑を彩る。**ツノレイシ** (*P. pica* Blainv.) は帶黃色に栗黑色の斑紋を彩り、やゝ大形にして結節は少數にして一層強大なり。

八　(裸舌類)　(GYMNOGLOSSA.)

齒舌及顎を缺ぎ吻著しく、多分雌雄異體なるべく、また紐舌類の齒舌を失ひしものなるべし。

セトモノガヒ科　Family EULIMIDÆ.

第二十九圖



セトモノガヒ（原圖）

吻極めて長く、伸縮自在にして、外套膜は水管襞をなし、殼小さく光澤を有し、長くして披針形を呈し、縫合淺く、口緣連續し脣を有し或は有せず、此科の動物は往々寄生々活をなし、其長吻にて宿主より液汁を吸收す。

セトモノガヒ（新稱）(*Eulima martinii* A. Ad.) 殼は磁質にして圓錐形をなし、螺塔高く螺層多く、頂部一方に傾斜し、殼口狹く外脣の上部挿點より斜に上方に一溝を刻し、强き光澤ある磁白石なり、長凡一寸九州に產す。**ヒメセトモノガヒ**（新稱）(*E. bovicornu* Pilsbry) は小形、細長にして小笠原及八丈島に產し、其他琉球產等數種あり。

クチキレガヒ科 Family PYRAMIDELLIDÆ.

殼は螺塔高く、殼軸の前方に一乃至數襞を有し、古代に繁榮を極めしものと見え、化石頗る多しと云ふ、本科に屬する種類頗る多く、微細なるものに至りては殆んど數ふるに遑あらず、新種も亦尠からざるべし。

第三十圖



オホクチキレ（原圖）

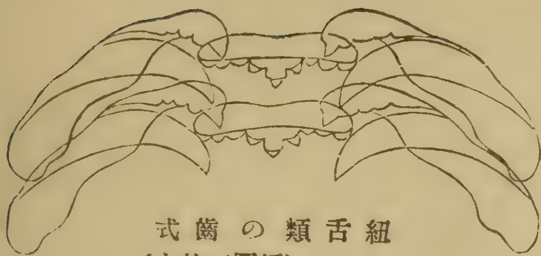
オホクチキレ (*Pyramidella sulcata* A. Ad.) 長大凡一寸、正圓錐形をなし美麗にして光

澤あり、螺塔高く、螺層脹るゝことなく、十數階を數へ、縫合深くして、恰も微褐彩を雜へたる白色の蠟石に螺溝を刻せるが如き觀を呈す。**シイノミクチキレ** (*P. mitralis* A. Ad.) は短小にして縱脈を刻し、口緣は幾分か厚くなれり。

二 (紐舌類) (TÆNIOGLOSSA.)

齒舌の常式は二・一・一・二にして緣齒は往々倍加す。

第三十一圖



紐舌類の齒式
シノマキ(原圖)(放大)

甲 (扁足類) (PLATYPODA.)

足は多少、腹面扁平なり。

ホラガヒ科 Family AQUILLIDÆ.

毎螺層の縱脹脈は決して二ケ以上に達することなきを以て其三ケ以上なるホネガヒ族と區別することを得べし。

カコボラ (*Aquillus olearium* Linné) 殼は短紡錘形をなし、長四寸ばかり、大なる螺脈を繞らし粗毛を有せる表皮を被り、

內唇には多數の横襞を具へ、淡褐色にして縦脹脈及兩唇は暗栗色を彩り、兩唇の齒白く、外唇の內面は柑色を呈し、東海道より九州に至る海岸に産す。**シノマキ** (*A. pilearis* Linné) はカコボラよりも小形狹長にして、表皮薄く其毛細かにして、黄褐色の地に暗色帶を繞らし、口內は紅色を呈し唇の齒白く、南日本に産す。

第三十二圖



ホラガヒ（原圖）1/4

ホラガヒ (*A.* (*Septa*) *tritonis* Linné) 殼質重厚にして、長さ六七寸より一尺四五寸に達し、螺塔高く、螺頂尖り、螺層に縦脹脈を具へ、圓くして大なる螺肋を有し、紅褐白等種々の波紋を飾り專ら琉球に産す、昔時殼頂に孔を穿ちて之を陣貝に用ひ或は時を報じ、又山伏の携帶吹奏する所たりき。**バウシウボラ** (*A. nodiferus* Lam.) はホラガヒに酷似せるも稍や小形にして螺塔低く殼口小さく、螺層に一二列の大なる圓き結節を具へ、螺脈曖昧なり、白地に

赤褐色の斑紋を有すれども ホラガヒ の如く判然たらず、肉は食用に供せられ、殼は法螺の代用をなす。

オキニシ (*Gyrineum bufonium* Gmelin) は殼質重厚黄白色をなし、其形腹背の方向に壓扁せられたるが如く、螺肋及結節大きく、後溝著しく、其尖端少しく突出し、殼口小さく、帶黄色にして外唇の齒及內唇の皺は白色を呈し長凡二寸五分、亦南方の產なり。



第三十三圖　マツカハガヒ（原圖）

マツカハガヒ (*Apollon pulchra* Gray) 殼は甚しく腹背の方向に壓扁せられ、兩側の縱脹脉は異常に發達して、鰭狀をなし、頗る奇異の觀を呈し、淡黃乃至白色の地に淡褐色の曖昧なる帶或は斑點を有し、口內は白色なり、長凡二寸、東海道、南海道の沿岸に產す。

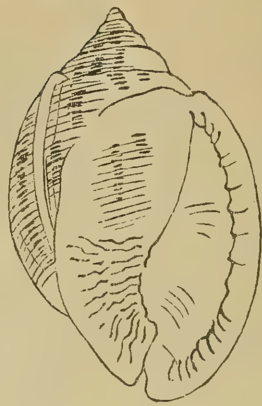
タウカムリ科 Family CASSIDIDÆ.

殼質堅固、殼形脹れ、往々不規則なる縱脹脉を有し、螺塔低く、殼口狹長にして、外唇

反曲して齒を具へ、內唇は往々擴張して體層を覆ひ、水管溝は鋭く反曲し、靨は小形にして扇形を呈す、或種は頗る大形にして美麗なり。

タウカムリ (*Cassis cornuta* Linné) 殼質重厚白色の倒圓錐形をなし、肩角に大なる突起を具へ、其下に二列の小突起を繞らし、兩唇廣く板狀に擴張し、淡肉色を呈し內方に齒を具へ、殼口狹く水管溝は反曲せり、長凡八九寸、南日本に產す。**マンボウガヒ** (*C. rufa* Linné) はタウカムリに似て稍や小さく、兩唇は少しく反曲して肉紅色を呈し、表面に結節多く葡萄色の地に栗斑及白斑を雜ふ、亦南海の產なり。

第三十四圖



カヅラガヒ（原圖） 2/3

カヅラガヒ (*Cassis strigata* Gmelin) 體層大きくして圓く、縱脹脉を具へ、殼口狹長にして外唇緣に齒を有し、殼軸に襞ありて、短き水管溝は後方に反折し、褐地に栗色の縱曲線を畫けり。**ウラシマ** (*C. saburon* Adans.) にありては該縱線は三四條の白帶に橫ぎられて栗色の方形紋を呈し、彫刻粗糙なり。

ウヅラガヒ科　Family DOLIIDÆ.

第三十五圖



ヤツシロガヒ（原圖）$\frac{1}{3}$

殼質薄く、體層大きく、球形或は梨形をなし、螺塔低く螺肋頗る大なり。

ウヅラガヒ (*Dolium perdix* Linné) 長凡四五寸に達し、南部日本に產し、ヤツシロガヒより螺塔高く、暗色にして鶉紋樣の外觀を呈す。

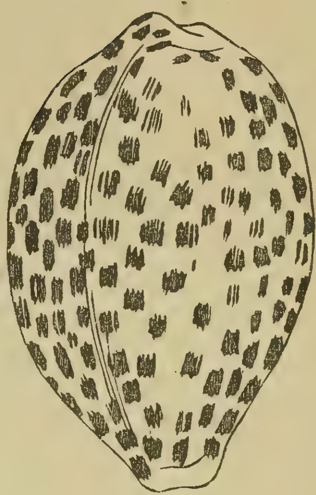
ヤツシロガヒ (*Dolium luteostoma* Kust.) 長四五寸、中部日本に產し、淡褐色にして球形をなし、大なる螺肋上にまばらなる濃褐點を散らし、殼口頗る大なり。

タカラガヒ科　Family CYPRÆIDÆ.

卵形或は橢圓形の美麗なる貝類にして、平滑にして光澤を有し、螺塔は琺瑯質に埋沒して只體層のみを見はし、殼口狹長にして線狀をなし殆んど殼の中央を縱貫す、此類古來玩貝家の珍とする所にして古代の人民は多く之を錢貨として使用し、支那にありても古代此

風ありしを以て賣買、財貨、賄賂等の如く金錢に關係ある文字は大概貝に從ふを見る、野蠻人の間にありては今猶は此風ありと云ふ。

第三十六圖



ホシタカラ（原圖） $\frac{1}{2}$

ホシタカラ (*Cypræa tigris* Linné) 殼は滑にして長四寸ばかり、略ぼ卵形をなし、體層大きくして螺塔は埋沒し、殼口狹長にして外唇内曲し、内外兩唇に齒を具へ、白地に褐雲を有し、密に大なる栗黑點を散し、昔は紙磨に用ひしが今は之を切りて杯等を作る。

ハナマルユキ (*Cypræa caput-serpentis* L.) 凡一寸ばかり、本邦中部以南に產し、ホシタカラよりも著しく小さく、黑色の背面は山形をなし、山巓に雪片を散らし兩端及兩唇は白色なり。

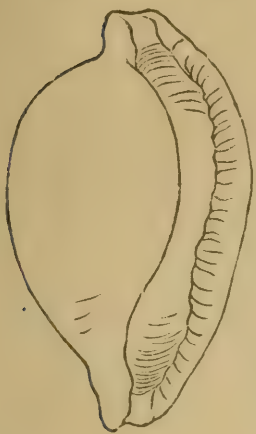
メンガタタカラ（岩川）(*Cypræa moneta* Linné) 又は **キイロタカラ**（内山）、南部日本に產し、ハナマルユキよりも小形にして、山巓の前方兩側に鈍き結節狀部あり、光澤ある黃地に曖昧なる綠色帶を有す。 **ハナビラダカラ** (*C. annulus* L.) はメンガタタカラに似て、帶

黄淡灰色をなし、背面に黄色線の環狀紋を彩る、凡てタカラガヒ類の殼は異彩の數層を以て成れるを以て、之を利用して各種の彫刻をなすに最も可なり。

ヤクシマタカラ (*Cypræa arabica* Linné)　本邦中部及南部に普通に產し、大さ二三寸にして楕圓形をなし、幼貝は青白の地に淡栗色の曖昧なる帶を有すれども成長せし標品にありては其上に栗色の梵字模樣を飾り底部の兩側に大なる黑點を散らし、齒は栗色なり、昔は紙摺などに用ひたり。

コモンガヒ (*Cypræa erosa* Linné)　南部日本に產し、大さ略ぼハナマルユキと等しくして長く、淡青褐色の地に少數の大なる褐色蛇の目點と無數の小白點とを散らし、蛇目點の內部は青色を呈し、齒は兩側に擴がり、兩側に一ケ宛の大なる褐色方形斑を有せり。

第三十七圖



ウミウサギ（原圖）　1/2

ウミウサギ (*Ovula ovum* Linné)　殼形タカラガヒ類に似るも外唇內曲の度少く、內唇に齒を有せず、表面は平滑にして光澤ある磁白色をなし、口內は暗柑色を呈し、一見磁器の如く、緒締、杯、匕等を製す、長凡三寸、南日本に產す。

ヒガヒ (*Volva volva* Linné) ウミウサギよりも著しく小形にして内外共に淡肉色を呈し、淺き細螺溝を彫し、前後の水管溝は垂直に延長し梭狀の外觀を呈す。

ソデガヒ科 Family STROMBIDÆ.

殼質堅固、概して螺塔高く、外唇擴張して往々葉狀、指狀等をなし、殼軸に襞なく、滑層厚く、後溝よく發達し、鈎狀角質蓋の外緣は大抵鋸齒狀をなせり、動物の足は跳躍に適し、習性活發强壯なり。

第三十八圖



ゴホウラ（原圖）$\frac{1}{3}$

ゴホウラ (*Strombus latissimus* Linn.) 殼質極めて重厚にして相隔りたる低き螺肋を有し、淡褐色の地に栗線及白斑を雜へ、褐色の唇は遙かに螺頂上に擴張し、口內白く、螺塔の腹半部は外唇內に埋まり、圓き駝背を有し、體層肩角の殼軸に近き部に鈍き一大突起あり、長凡五六寸、南方に產す。

イボソデ (*Strombus lentiginosus* L.) 長凡三寸、背面白く大なる結節を具へ、殼口狹長にして淡肉紅色を呈し、外唇は袖をなして厚く、其前後溝に近き部分には緣に二ヶ所宛の凹所あり、内唇の滑層廣く眞珠色をなし全腹面を蔽ひて螺塔に達す。

マヒノソデ (*Strombus auris-dianæ* L.) 長凡二寸五分、南部日本に產し、螺塔高く、結節大きく、袖の後角と反曲せる嘴とは延長して尖り背面は淡褐色に白點を雜へ、全腹面は白色の滑層を被り、口内は鮮紅色を呈す。

シドロ (*Strombus japonicus* Reeve) 長二寸餘、日本中部に產し、紡綞形をなし、袖は後突起を缺ぎ、内面に齒狀の隆起脈を有し、滑層は擴張せず、螺塔高く淡褐色を常とし、體層は暗褐色にして往々二三條の白帶を繞らし螺脈著しく、他の諸螺層にありては縱肋著名なり、後溝深くして長く、嘴は少しく反曲し、口内は白し。

マガキガヒ (*Strombus luhuanus* L.) 長二寸、南部及中部日本に產し、芋貝形にして白地に褐色の籠樣紋を有し、口内赤く内唇白く芋貝と誤り易きも、外唇の前部に凹所あるを以て袖貝屬たることを明かにすることを得べし、元來芋貝には齒に嚙付き有毒なるものあるを以て之に似たる他の貝も有毒なりと誤認せられ、魚類等の呑食を免るゝことあるべし、此の如きを動物の擬體とは云ふなり。

第三十九圖



クモガヒ（原圖） $\frac{2}{5}$

クモガヒ (*Pterocera lambis* Linn.) 南部日本に產し、大なる紡綞形をなし外唇擴張し、管狀の長突起五六ヶを出し、前後溝も亦管狀を呈し、腹面は滑層を被り、背面に數ヶの大結節あり、表面は淡黃の地に褐帶を繞らし、口内は淡肉色なり。**スイジガヒ** (*P. chiragra* Linné) は殼質堅固大形にして刺は四方に射出して水字形をなし、斑紋著しく、殼口は狹くして、鮮紅色を彩る。

ヘビガヒ科　Family VERMETIDÆ.

殼は管狀をなし、往々岸石等に着生し、幼貝には規則正しく螺旋せるものあるも、老生せるものにありては不規則に屈曲するを常とす是れヘビガヒ、ミヽズガヒ等の名ある所以なり、本邦に數種を產す。

オホヘビガヒ (*Thyracodes imbricatus* Dkr.) 中部日本に產し、螺層は人の小指位の大さ

にして縦脈を有し不規則に螺旋し、螺塔は扁平となりて岩石等に附着し、外觀恰も蛇蟠旋せるが如し。

第四十圖



ミミズガヒ（原圖）

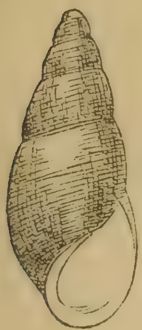
ミミズガヒ (*Siliquaria cumingii* Mörch) 中部日本太平洋岸に產し、螺層はオホヘビガヒよりも遙かに小にして、上面に裂目を有し、不規則に相離れて螺旋し、外觀一種の蚯蚓に似たり。

カハニナ科 Family MELANIIDÆ.

最も普通なる淡水產貝類の一にして、殼は暗色の表皮を被り、概して螺塔高く、種々の彫刻を有し、全國到る所の河湖に住し、邦產の種及變種を合して十數種あり。

カハニナ (*Melania libertina* Gould.) 中國、九州等到る所の淡水に普通なる黑色長形の小貝にして、往々食用に供せらる。

第四十一圖



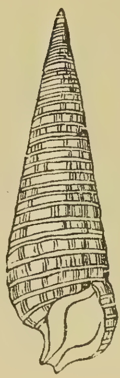
カハニナ（原圖）

カニモリガヒ科　Family. CERITHIIDÆ.

殼は長形にして、螺層多く、殼口は前溝著明なれども後溝著しからず、老成せるものにありては外唇擴張し、厴は角質なり、彩色美麗ならず。

コオニノツノガヒ (*Cerithium columna* Sowb.) 長一寸五分、南部日本に產し、螺塔高く縱脹脉を有し、密接せる螺脉は曖昧なる縱肋と交はりて不規則なる波狀を現はし、縫合の邊殊に皺縮して一體に汚白色なる粗澁の外觀を呈す、外唇稍々擴張し、殼口は比較的に狹く、前後兩溝を具へ、口內は白色なり。

第四十二圖



カニモリガヒ（原圖）

カニモリガヒ (*Cerithium kochii* Phil.) 長一寸餘、中部日本に產し、螺塔頗る高く、縫合判然せり、美麗なる螺脉上に無數の小結節ありて略ぼ不規則なる縱列をなし、白地に淡褐帶あり、其死殼に寄居蟲を宿すこと多きにより蟹守と名づく。

コベルトカニモリ (*Cerithium kobelti* Dkr.) はカニモリガヒよりも短小にして彫刻粗く橄欖褐色の地に數條の灰白帶を繞らし。**カヤノミカニモリ** (*C. humile* Dkr.) は更に短小に

して黒色を呈し、共に中部日本に產す。**クハノミカニモリ** (*C. morus* Lam.) は小笠原に產し、形狀彩色共にカヤノミカニモリに酷似するも著しく小形なり。

カハアヒ (*Potamides fluviatilis* P. & M.) 中部日本に普通に產し、螺塔高く頂部の數層は大抵浸蝕せられて首切れとなり、縱肋及螺脉相交りて鑢様の外觀を呈し、汚褐色に白帶を繞らし、殼口は奇なる三角形をなし外唇の前部延長前曲して側方に前溝を作し、口内は紫黒色なり、淡水の灌ぐ濱海に產す。

シマニナ (*Potamides cumingi* Crosse) は カハアヒ と同所に產し、小形にして體層は該種の如く大ならず。

ゴマフニナ科　Family PLANAXIDÆ.

第四十三圖



ゴマフニナ（原圖）

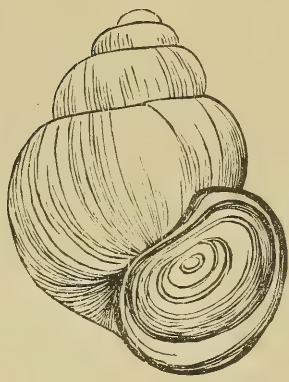
殼は卵圓錐形を呈し、螺塔高く、螺脉を刻し、殼軸扁平にして前端は截切狀を呈し、外唇圓く簡單にして前方に切込あり、厴は角質にして亞螺狀をなす。

ゴマフニナ（新稱）(*Planaxis sulcatus* Born.) は白色にして螺肋上に黒色の短線を列し、紐様の外觀を呈す。

タニシ科　Family VIVIPARIDÆ.

最も普通なる淡水產貝類の一にして殼は卵形を常とし、上方角立ち下方圓く、帶綠色の厚き表皮或は透明の薄き表皮を被り、口緣完く、往々食用に供せらる。

第四十四圖



マルタニシ（原圖）

マルタニシ (*Viviparus malleatus* Reeve)　殼質脆薄にして螺層圓く、殼口は略ぼ楕圓形をなし、表面は帶綠灰色を呈し、往々不規則なる暗色の縱線を有し、內面は帶菫白色なり、池沼に多く、肉は食用となる。**オホタニシ** (*V. japonicus* Mart.)　は大形にして周緣に角を有し。**ナガタニシ** (*V. sclateri* Frfld.)　は狹長にして周緣の角最も銳し。

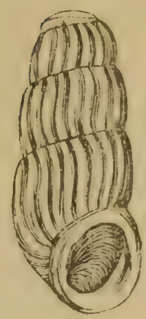
クビキレガヒ科　Family TRUNCATELLIDÆ.

動物は象鼻極めて長く、眼は無柄にして觸角の基部後方に位す、殼は小圓筒形にして蓋を有し、老成せしものにありては、螺頂截切せるを常とす、海濱に產し空氣を呼吸す。

クビキレガヒ（新稱）(*Truncatella valida* Pfr.) 幼殼は圓錐形をなせども老成せしものは頂部の數層を失ひて略ぼ圓筒形を呈し、螺層脹れ美麗なる强縱肋を刻し、淡黃乃至赤褐色なり、長凡三分、琉球、小笠原等に產す。

マメタニシ（新稱）(*Blanfordia bensoni* A. Ad.) 殼は微小なるタニシ形をなし、螺塔高く、螺層脹れ、縫合深く、クビキレガヒの如き彫刻なく、飴色の表皮を被り、殼口は卵形をなし口緣は黑色を呈す、長凡三分餘、北海道の產なり、中部日本及臺灣等にも各一二種を產す。

第四十五圖



クビキレガヒ（原圖）

ヤマタニシ科　Family CYCLOPHORIDÆ.

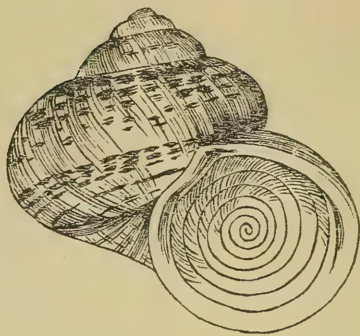
陸產にして觸角長く齒狀を呈し、殼は圓形の靨を有し、口緣圓く往々反曲す。

ヤマタニシ (*Cyclophorus herklotsi* Mart.) 殼質稍々厚く、螺塔比較的高く、螺層凡五階急劇に增大し、甚しく脹れ、臍孔深く、殼口圓く、靨は角質にして少しく凹み其中心に核を有せり、褐色の表皮を被り周緣下に栗色の廣き帶を繞らす、本邦到る所山間村落叢地の落葉土壤中に埋生す。

オキナハヤマタニシ（新稱）(*Cyclophorus turgidus* Pfr.) はヤマタニシに酷似せるも稍々小形にして周縁に角を具へ、淡色にして線紋判然し、廣狹數條の栗色帶と濃淡種々の栗色點とを有す、大隅諸島(種子島屋久島を除く)以南琉球各島に最も普通に發見せらる、本種の變種に一、類似種に一の大形美麗なる種あり、一は**リウキウヤマタニシ**と稱し琉球國頭郡の産なり、學名を *C. turgidus angulatus* Pils. と云ひ、今一は大島及徳の島に産するものにして學名を *C. hirasei* Pils. と云ふ、和名を**オホヤマタニシ**と新稱す。

アツブタガヒ (*Cyclotus campanulatus* Marts.) は陸産にして螺塔低く、稍々扁平にして、螺層圓く大なる臍孔を有し、光澤ある黄褐色の表皮を被り、殼口圓く、厴も亦圓くして石灰質にして渦狀脈を刻す、直徑凡五分、中國、四國、九州等に産す。

第四十六圖



オホヤマタニシ（原圖）

ヤマクルマ (*Spiropoma japonicum* Ad.) は形色大さ共にアツブタガヒに酷似せるも、螺塔扁平にして臍孔更に大きく、厴は角質にして螺狀を呈し、外方に突出す。

ムシオヒ (*Alycaeus melanopoma* Pils.) も亦陸産なり、殼形アツブタガヒに類似するも微小にして螺層に縱脉を刻し、體層の末部は俄然下降し、其少し上部縫合に蟲様の附屬物を有するを以て識別容易なり。

アヅキガヒ (*Pupinella rufa* Sowerby) 殼は蛹形にして殼質厚く、赤褐色をなし、殼口圓く口緣厚く白色を呈し、前後に切込みあり、長凡四分、中國、四國、九州等に産す。

ゴマガヒ (*Diplommatina cassa* Pils.) は殼形アヅキガヒに似るも微小にして螺層に絲狀の縱脉を有し、淡黃乃至灰褐色を呈し、長凡一分、中部日本に産す。

タマキビ科　Family LITTORINIDÆ.

殼は大抵小形にして眞珠質ならず、獨樂形或は球形をなし、殼口緣は全し、淡鹹兩水或は半鹹水に産し、兩棲のものもあり、本邦に八九種を産す。

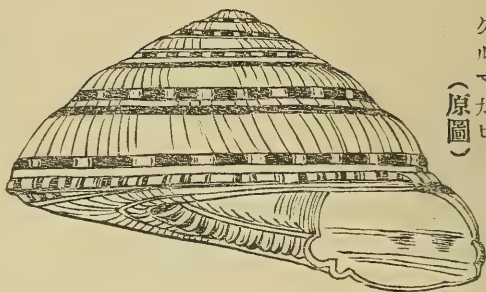
タマキビ (*Littorina sitchana* Phil.) 中部及北部本邦に最も普通に産し、玉蜀黍粒よりもやゝ大にして螺頂尖り、數條の螺肋を具へ、栗地に白帶白點を有し、海岸の岩石上に無數に附着し、手を觸るれば直ちに海中に落るを常とす。

第四十七圖



コンペイトウ(原圖)

第四十八圖



クルマガヒ（原圖）

コンペイトウ（新稱）(*Echinella cumingi luchuana* Pils.) はタマキビの類にして形等しく、只金米糖狀の刺あるを異なれりとす、概して黄褐色なり。**アラレタマキビ** (*E. nodulosa* Gmelin) はコンペイトウよりも細長小形にして顆粒は少數にして著しからず、共に本邦南部に普通なり。

クルマガヒ科 Family SOLARIIDÆ.

殼は螺塔低く、殼口は角を有し、臍孔廣くして深く、其緣は齒狀を呈し、往々馬締螺狀をなすことあれども眞珠質ならざるを以て識別し難からず、種類少し。

クルマガヒ (*Solarium perspectivum* Lam.) は徑凡一寸五分、主として中部以南に產し、紫灰色にして縫合及周緣附近に褐帶或は美麗なる斑紋を繞らし、臍孔內の齒は褐色なり。

コグルマ (*Solarium cingulum* Kiener) は小形にして、淡栗色をなし、縫合及周緣に小白斑あり、臍孔大きく遠見を有し、其緣白し。

フ子ガヒ科 Family CALYPTRÆIDÆ.

鰓は細密に深く切れ込みたる羽狀をなし、殼僅かに螺旋をなし、略ぼ皿狀を呈し、內方に往々隔板を有す、厴なし。

スズメガヒ (*Amalthea pilosa* Desh.) 主として中部以南に產し、傾きたる小笠形にして布目狀彫刻を有し粗毛を具へ、表面は褐色、徑凡三四分なり。**キクスズメ** (*A. conica* Schm.) はスズメガヒに酷似せるも表面に毛を有せずして放射脈を刻し、口緣は齒狀を呈し、往々サヽエ、アハビ等の殼面に附着す。



第四十九圖

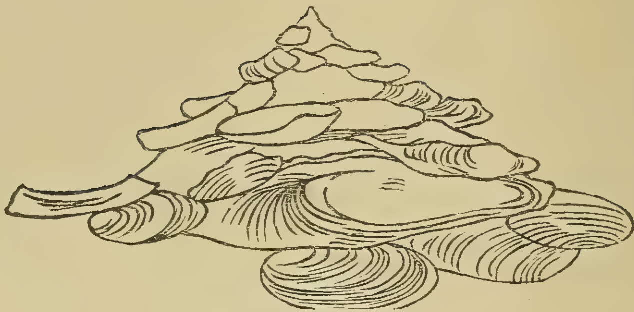
アハブ子（原圖）

アハブ子 (*Crepidula aculeata* Gmel.) 主もに中部本邦に產し、扁平小形にして、腹面の上半に隔板を具へ、上靴形をなし螺塔極めて低小にして、恰も二枚貝の片殼の如き觀を呈す。

キヌガサガヒ科 Family XENOPHORIDÆ.

笠形の螺殼を有し、巧みに殼片、石粒等を表面に附着して周圍の海底に似せ以て防禦及捕餌の便を享く、熱地產にして種類少し。

第五十圖



クマサカガヒ（原圖）2/5

キヌガサガヒ (*Xenophora exuta* Reeve) 長凡三寸、中部本邦に產し、笠形にして薄く、表面は黃褐色を呈し底面を過ぎて擴張し、粘土細工を指頭にて壓し之に渦紋を印したるが如き美麗の彫刻なり、臍孔大にして遠見あり。**クマサカガヒ** (*X. pallidula* Reeve) はキヌガサガヒに酷似せるも縫合及周緣に貝殼の破片或は礫等を附着せるを以て海底を匍匐するに際し其磨擦障碍を免れんが爲めに輕く跳躍しつゝ進行すと云ふ。

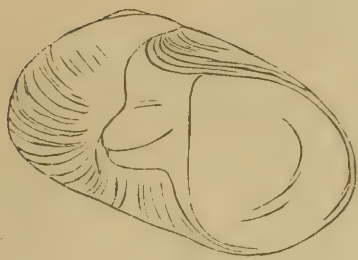
タマガヒ科　Family NATICIDÆ.

殼は大抵平滑にして球形に近く水管溝を缺ぐを以て前記の諸族と區別するを得べく、外唇は平滑にして銳く、內唇は大抵滑層を被り、多少反曲して臍孔を覆ひ、厴は石灰質（タマガイ屬）或は角質（ツメタガヒ屬）なり。

ヘソクリ (*Natica maculosa* Lam.) 長凡八九分、瀬戸內海、九州等に產し、タニシに似たる小螺にして、白地に褐雲、黑點

を有し、通例之を煮しめ、つま揚子にてくり出して食ふ、其味タニシに似て更に美なり。**エゾタマガヒ** (*N. clausa* B. & S.) はヘソクリに類似するも頗る大形にして褐色に淡帶を有す。

第五十一圖



ツメタガヒ（原圖）$\frac{1}{2}$

ツメタガヒ (*Polinices ampla* Phil.) 殼質重厚球形をなし、螺塔短く、殼口完全にして、靨は角質にして僅かの螺旋を有す、表面は淡肉色或は帶黄褐色を呈し、動物は外套膜廣く、足も亦大にして、其前部は襞をなして後方に反折し以て殼を覆ふ、性活潑好で二枚貝を食ひ、口吻下の腺より酸液を分泌して其蝶番附近に穿孔し、よりて其養分を吸收す、其卵塊は廣く卷かれたる帶狀をなし、其肉は味美ならず。

トミガヒ (*Polinices mamilla* Linné) 長大凡一寸二三分、饅頭形をなし、臍孔は閉塞せられ白色にして光澤強し。**ヘソクロトミガヒ** (*P. melanostoma* Gmelin) はトミガヒに類似せるも表面に淡褐色の雜斑を有し、臍部は黑色を呈す。

乙　（異足類）　(HETEROPODA.);

足は鰭狀をなし、扁平ならず。

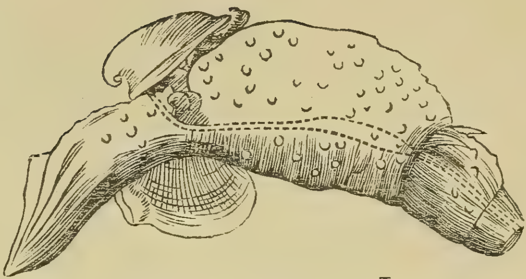
プテロトラキア科　Family PTEROTRACHÆIDÆ.

體長く、尾鰭を具へ、鰓は背部に位し、或は其一部殼にて保護せられ或は裸出す、足は筋肉質の盤より成り、吸盤を有し或は有せず。

プテロトラキア (*Pterotrachæa* sp.) は外套、殼或は觸角を有せず、腹面を上にし鰭と全體とを動かして游泳す、雌雄異體にして小動物を餌食す。

カリナリ (*Carinaria* sp.) は多皺透明の皮膚を有し、頭に二ケの觸角あり、內臟囊は略ぼ中央に位し、恰も柄を出したるが如き外觀を呈し、ヨメガカサ狀左右相稱小形透明の殼を被り靨なく幼殼は螺旋し、老成せし殼の頂部に永存す、足は盤狀を呈し、其端に吸盤を具ふ。

第五十二圖



カリナリの一種（クック氏）

Carinaria mediterranea Lam.

第五十三圖



翼舌類の歯式（原圖）（放大）
Scala greenlandica Chemn.

ホ　（翼舌類）（PTENOGLOSSA）

歯式は８・０・８、歯は悉く同形にして最外は最大なり。

アサガホガヒ科　Family IANTHINIDÆ.

吻は鈍くして著しく、眼なく、殻質脆薄蝸牛殻状を呈し、厴を缺ぐ、卵は足に附屬せる空泡の筏に附着す、太洋にのみ住す。

アサガホガヒ　(*Ianthina ianthina* Linne) は殻形比較的扁平にして縫合淺く、周縁に角を有し、上面は微菫色、底面は濃紫色、底面の中央部は白色を呈し。**ルリガヒ**　(*I. globosa* Swainson) は殻形圓く、縫合深く、全體淡紫色なり、共に殻面に生長線と雛狀の螺脈とを刻し、周縁の外唇に終る所に少しの切込あり。

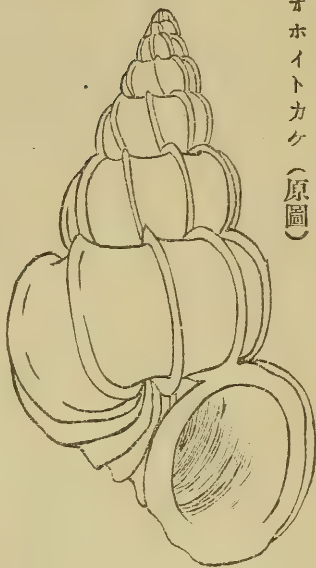
第五十四圖



アサガホガヒ及其浮泡
（アダムス氏）

イトカケガヒ科 Family SCALIDÆ.

殼は多く純白にして光澤强く、螺層圓くして階數多く往々相分離し、殼口圓し、多數の縦肋を飾り、靨は角質にして其螺層數少し、小形なる種類多く大形種は稀有にして價頗る貴し。



第五十五圖

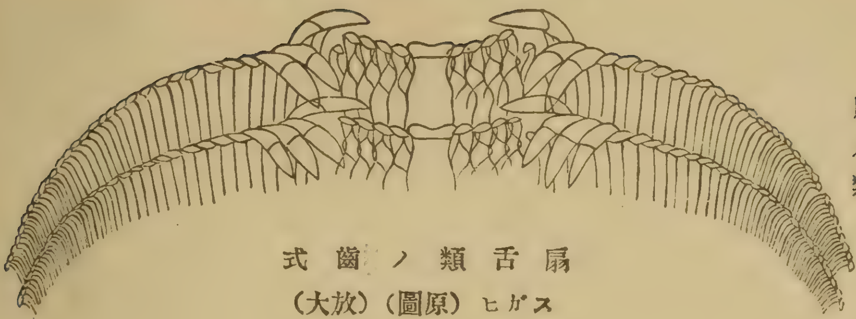
オホイトカケ（原圖）

イトカケガヒ (*Scala lamellosa* Lam.) 中部以南の海に產し、螺塔高く、螺層圓く、十階內外を數へ、十餘行の縦脹脉ありて薄板狀をなし、恰も糸をかけたるが如く頗る美麗なり、之に似たる。**オホイトカケ** (*S. pretiosa* Lam.) は稀品にして高價なり。

亞目 双心耳類 Suborder **DIOTOCARDIA.**

心臟に二心耳を有し（梁舌類 DOCOGLOSSA 及ヤマキサゴ科を除く）、鰓は双羽狀をなし、前端は遊離せり、一對の腎臟を具へ、生殖孔は右方に位し（アマガヒ科を除く）吻或は水管溝を缺ぐ。

第五十六圖



扇舌類ノ齒式

スガヒ（原圖）（放大）

ヘ（扇舌類）（RHIPIDOGLOSSA.）

心室は直腸に横ぎられ（ヤマキサゴ科を除く）、一ヶ或は二ヶの鰓を有し、顎は二片より成り、齒舌長く、緣齒は多尖にして其列曲れり。

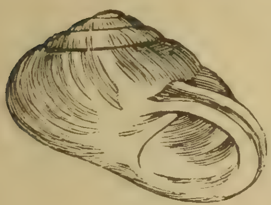
ヤマキサゴ科　Family HELICINIDÆ.

鰓を有せずして肺腔を具へ、心臟は一心耳を有し、殼は球形を呈し、螺塔低く、內部の隔壁は吸收せられ、厴に突起なし、小笠原及琉球には小形種を產すること十數種に及ぶ。

ヤマキサゴ（*Helicina japonica* A. Ad.）

殼は豌豆大にして稍や扁たく成長襞を刻せるも平滑にして、光澤ある飴色の表皮を被り、殼口は半圓形を呈し、口緣は反曲し臍孔を缺ぎ、口緣及臍部には白色の滑層を有せり。

第五十七圖



ヤマキサゴ（原圖）4/1

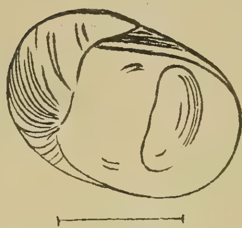
アマガヒ科　Family NERITIDÆ.

殼質薄く眞珠質をなさず、螺塔極めて小さく半球形を呈し、臍孔なく殼口は半月形をなし、內唇扁平、擴張して殼口の一部を覆ひ、外唇銳く、厴は殼質にして亞螺狀を呈す。

アマガヒ (*Nerita pica* Gould) アマヲブ子よりも小形、薄質にして圓く、黑地に粗らなる白點あり、海濱の岩石上にタマキビなどと共に普通に發見せらる、アマガヒ屬中本邦に產するもの十數種あり。

アマヲブ子 (*Nerita albicilla* Linné) 長大凡七八分、中部及南部に產し、螺塔平坦にして體層大きく殆んど全體を領し、殼口は半圓形をなし兩唇厚く、白色の滑層廣く、其上に顆粒を具へ、螺肋及生長線明かにして白地に黑斑を有し、或は黑地に白紋ありと云ふことを得べし。

第五十八圖



アマガヒ(原圖)

ヒロクチカノコガヒ (*Neritina crepidularis* Lam.) 中部本邦に普通に產し、形はアマヲブ子に似て著しく小さく汚黃褐色の地に、黑色の線紋を有し、口內は淡靑白色なり。

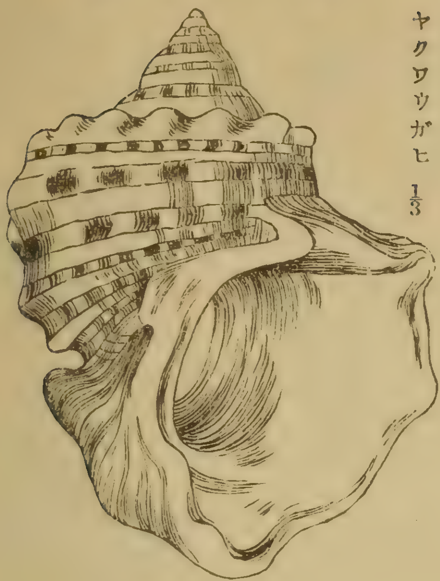
サザエ科　Family TURBINIDÆ.

殼質堅固、其面は平滑或は皺狀彫刻を有し、獨樂形或は馬蹄螺形をなし、殼口は圓形、

卵形或は亞方形を呈し、唇は簡單にして、內部は大抵眞珠質なり。

サザエ (*Turbo cornutus* Gmelin) 殼質重厚にして拳狀をなし、螺層には强き管狀突起を有するものと否とあり、殼口圓く、表面は暗青色にして、內面は稍や眞珠色を呈し、厴は石灰質にして甚だ厚し、本邦西南の海に多く東北に少し、其肉美味にしてサザエの壺燒とて有名なり、殼は昔時坑內燈火の油皿に用ひ或は切て杯を作り、厴を磨きて碁石を製したりと云ふ。

第五十九圖

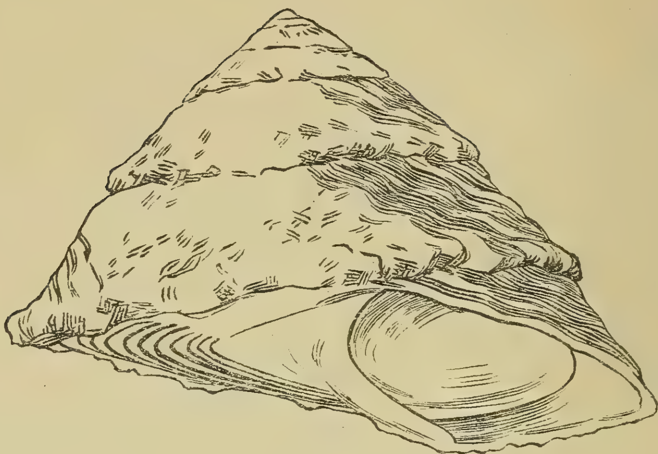


ヤクワウガヒ $\frac{1}{3}$

リウテン (*Turbo petholatus* Linn.) 殼は極めて美麗にして、殼質重厚、螺塔秀で、螺層脹れ殼口圓く、內唇の滑層厚く、臍孔を缺ぐ、表面平滑にして光澤を有し、淡黃乃至栗色を呈し、濃淡の雲影相雜りて墨流染模樣をなし、更に濃淡交互せる廣狹數條の螺帶を繞らし、該螺帶は往々綠色を彩れり、長凡二寸、南部に產す。

ヤクワウガヒ (*Turbo marmoratus* Linn.) の殼は大さ往々頭大に達し大なる螺肋上には鈍き

第六十圖



ヒラサザエ（原圖）$\frac{1}{2}$

結節を具へ、汚綠色にして數條の栗色帶を繞らし、口內は美麗なる眞珠光を有す、切て杯、釦等を作り、靨を以て玩具を製す、薩南諸島及琉球近海の產なり。

スガヒ (*Turbo coronatus* Gmelin) 殼は不規則なる扁球形をなし、表面粗糙にして結節狀の數螺肋を繞らし、汚褐色を呈し、臍孔なく、殼口圓く、口內は眞珠樣の光澤を有す、靨は石灰質にして厚く、外面圓く凸出し之を酢酸上に浮ぶるときは溶解に際して回旋するを以て小兒玩具に供せらる。

ウラウヅガヒ (*Astralium hæmatragus* Menke) 本邦中部に產し、少しく斜立せる小圓錐形にして、周緣に斜めの刺狀隆起を有し、菊花樣の外觀を呈し、底面平たく渦狀脉を有し、臍孔なく

第六十一圖



サラサバテイ　$\frac{1}{2}$

臍部は紫色なり、脣は紅紫色を彩り美麗にして玩具とすべし。**リンボウガヒ** (*A. triumphans* Phil.) は周縁の刺長くして車輪狀を呈し。**ヒラサザエ** (*A. japonicum* Dunker) は大形にして低圓錐形をなし、製釦に供せらる。

バテイラ科 Family TROCHIDÆ.

殼形は長短種々あり、殼口にも方形或は圓形あり、口緣は概して全からず、內部は大抵眞珠質なり、サヾエ科との識別點は殼形の圓錐形更に著しく、其脣の角質にして螺層多きにあり。

サラサバテイ (*Trochus niloticus* Linné) 殼質重厚にして高さ凡そ四五寸に達し、正圓錐形を呈し、螺塔高く其輪廓は殆んど直線をなし、體層及次體層にありては少し凹めり、底角著しく

てし圓く、底面は殆んど平坦なり、表面は白色にして暗紅色の斜縱斑を飾り、底面にありては該斑紋は鮮紅色の火焔狀を呈し、極めて美麗なり、眞珠質厚きを以て、多く釦紐製造に使用せらる、高瀬介とも稱せられ、琉球諸島より多く產す。

ベニシリダカ (*Trochus conus* Gmel.) はサラサバテイよりも小形にして螺肋は顆粒狀を呈し、火焔狀の赤色縱斑を飾り。**ニシキウヅ** (*T. maculatus* L.) は更に小形にして細密なる彫刻を有し、淡紅、紫黑、綠色、白色の雲斑線紋を雜彩す。**ムラサキウヅ**（新稱） (*T. incrassatus* Lam.) はニシキウヅに酷似せるも殼質厚く彫刻稍や粗く暗紫色と白色とを雜彩す。**ギンタカハマ** (*T. obeliscus* Gmel.) は中部以南の海に產し、稍々高き正圓錐形にして、周緣の角銳く、白色の底面は平坦にして、臍孔なく、縫合の上方に顆粒の二螺列を有し、其上部には更に小顆粒の三列を繞らし、表面は汚褐色に綠色を交ふ、殼口は菱形をなせども脣は圓し、廣瀬介とも稱し、サラサバテイと共に貝釦及器具の製造原料たり。

クマノコガヒ (*Chlorostoma nigricolor* Dkr.) はクボガヒ等と共に中部濱海に產し、鈍圓錐形をなし、彫刻細かにして、表面は黑く、臍部は大抵鮮綠色を呈し、臍孔を缺ぐ。**コシタカガンガラ** (*C. rusticum* Gmel.) は螺塔稍々高く、臍孔を有し極めて粗糙なる斜肋を刻し、白色の地に不規則なる黑斑を雜ゆ。

エビスガヒ (*Calliostoma unicum* Dunker) 大さ六七分、中部本邦に産し、螺層及底面脹れ臍孔なく、體層大きく、周緣の鈍角に栗白交互の一狹帶を繞らし、螺脉美麗にして、淡黃褐色に栗色の曖昧なる斑紋あり、彼の有名なる長者貝の本名を翁戎と稱するは其形狀頗る本種に似て巨大なるによるか。

イシダタミ (*Monodonta labio* Linné) 大さ凡六七分、形稍々エビスガヒよりも高く、彫刻粗く、美麗なる石疊狀にして、往々顆粒をなし、鮫皮狀を呈す、橄欖色にして、往々褐色を雜ふ、本邦至る所海濱に尤も普通なり。

クロヅケガヒ (*Monodonta neritoides* Phil.) はイシダタミよりも殼質薄く小形黑色にして、彫刻細密なるを以て表面平滑なり。

キサゴ (*Umbonium costatum* Lesson) 本邦中部に產し、殼は小形にして低き圓錐形をなし、螺層著しく、彩色斑紋多樣にして、眞珠質厚く、頗る美麗なるを以て女子の玩具に供せらる。

第六十二圖



キサゴ（原圖）

イボキサゴ (*Umbonium moniliferum* Lam.) はキサゴよりも著しく小形にして縫合に顆粒を具へ。**ダンベイキサゴ** (*U. giganteum* Lesson) はキサゴよりも遙かに大形にして表面平滑なり。

アシヤガヒ科 Family STOMATELLIDÆ.

殼形低平にして亞球形よりアハビ形或はヨメガサラ形に至り、殼口極めて大きく、內部は眞珠質を呈し、靨は馬蹄螺の靨に類似せるも大抵之を缺ぐ。

アシヤガヒ (*Stomatella lyrata* Pils.) 本邦中部に產し、形稍々アハビに似て螺塔著しく、列孔なき小貝にして、螺層脹れ、體層は殆んど全體を占め、殼口頗る大きく、表面は灰色にして黑褐點を散布し口內は綠色の虹彩を呈す、靨は角質小形なり。

フルヤガヒ (*Stomatia phymotis* Helb.) 本邦中部以南に產し、アシヤガヒよりも大形にして長く、螺塔比較的に高く奇形を呈し彫刻粗く、內部は眞珠色を呈し外面は灰白色なり。

第六十三圖



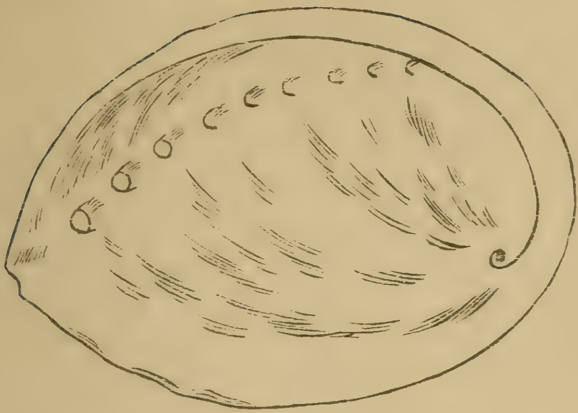
フルヤガヒ (原圖)

オキナエビス科 Family PLEUROTOMARIIDÆ.

殼は馬蹄螺形をなし、靨は角質圓形にして外唇に切込を有し、內唇は眞珠質なり。

オキナエビス (*Pleurotomaria beyrichi* Hilgendorf) 殼は圓錐形をなし、螺塔高く、螺層脹れ彫刻粗く螺脉は成長皺と相交りて稍々顆粒狀を呈し、周緣の上方及縫合に綳帶を具へ

淡柑色の地に鮮紅色斜縦斑を飾り極めて美麗なるを以て價頗る貴し、始め化石のみにして現生種なしと信ぜられしが我相模洋に本種發見せられてより續々新種を出し邦産のみにても既に命名せられしもの三種及未だ研究中に屬するもの二種あり、化石は已に一千一百種に上れりと云ふ、圖版第一圖に示せるは即ちこの翁戎一名長者貝なり。



第六十四圖

アハビ（原圖）1/3

アハビ科 Family HALIOTIDÆ.

殼は耳形にして、低小なる螺塔を認め得べく、體層偏平にして、殼口大きく殆んど全部を占め、一列の穿孔を有し、內部は眞珠質なり。

アハビ (*Haliotis gigantea* Chemn.) 殼質重厚にして耳形をなし、長五六寸、螺塔は小にして一方に偏り、殼口甚だ大きく、外緣に沿ひ一列の呼吸孔を具へ、其中四五孔は貫通せるを常とす、表面は褐色或は蒼紫色を呈し、內面は美麗なる虹彩を飾り諸種の貝細工に使用せられ、殼

の海外に輸出せらるゝ額少からず、肉は頗る美味にして價貴く、熨斗を製す、又乾製して支那に輸出す。

トコブシ (*Haliotis diversicolor* Reeve) 殼及習性共にアハビに酷似し、小形にして長二寸餘、呼吸孔は六乃至九ヶ貫通し、孔緣低し、肉は食用に供せられ亦美味なり。

ミミガヒ (*Haliotis asinina* Linné) 本邦南部に產し、アハビ及トコブシよりも長形にして耳狀をなし、螺塔著しきも極小なり、表面は褐色に淡色の斑紋ありて美麗なり。

ト (梁舌類) (DOCOGLOSSA.)

心臟は一心耳を有し、心室は直腸に貫かるゝことなく、內臟嚢は螺旋せず、殼は廣き圓錐形を呈し、臍なく、齒舌極めて長く、各列に數ヶの有鈎齒を具ふ。

ウノアシ科 Family ACMÆIDÆ.

鰓は只左側のもののみを有し、一長柄上に隔在せり、本邦に七八種を產す。

ウノアシ (*Acmaea saccharina* Linné) 本邦各地に最も普通に產し、低圓錐形なれども十條內外の大なる放射肋あるを以て鸕鷀の蹼足狀を呈し、全く螺狀を失ひ、殼頂は一方に偏せり岩石に吸着し、其力强し。

梁舌類の齒式（原圖）

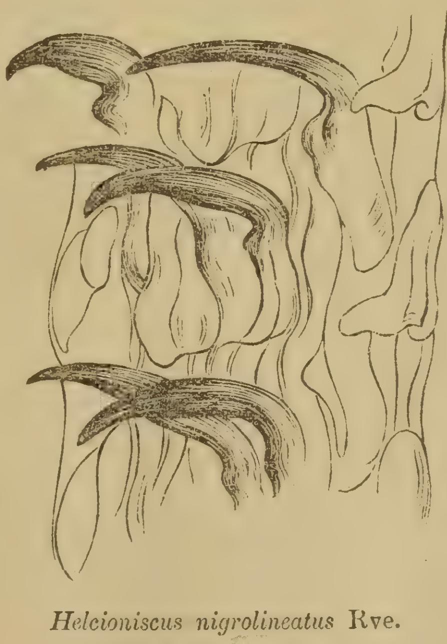
第六十五圖

甲圖



Patella vulgata L.
（放大）

乙圖



Helcioniscus nigrolineatus Rve.
マツバガヒ（放大）

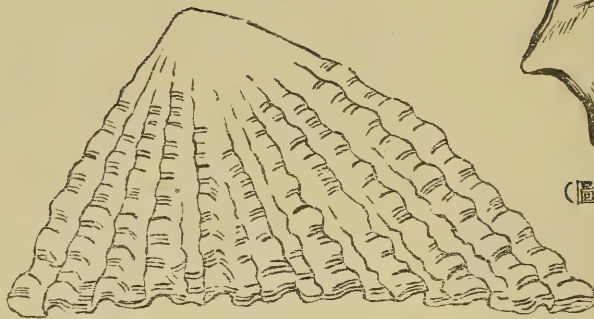
アヲガヒ (*Acmaea schrenckii* Lischke) は楕圓形皿狀をなし、殼頂は著しく前方に偏し、表面は汚黑色にして雜斑又は白色細放射紋を有し、放射脈極めて細密なり、內面の窩心部は綠色、套痕外部は蒼白色、口緣は黑色を呈し、長凡一寸、本邦到所の海岸に普通なり。

第六十六圖



ウノアシ(原圖)

第六十七圖



カサガヒ(原圖) 2/3

ヨメガカサ科 Family PATELLIDÆ.

動物は鰓を有せず、殼は笠形或は皿形にして螺層を見ず、殼頂は少しく前方に傾き、内面に馬蹄形の肉痕あり、主として海濱の岩石等に着生す。

ヨメガカサ (*Helcioniscus toreuma* Reeve) 本邦到る所に產し、マツバガヒよりも小形にして低く、殆んど卵形板狀を呈し、放射脈は細微無數なり、淡碧色に鏽褐色の點あり、水鳥野獸の食となす、往々野鼠の穴傍に此類の殼推を見、また稀に此族の巨大なる種に鼻或は喙を狹まれて斃れたる水鳥、野獸を見ることとありと云ふ。

マツバガヒ (*Helcioniscus nigrolineatus* Rve.) [一名**ウシノツメ**] ヨメガカサよりも稍々大形にして深く汚淡碧色にして、鏽褐色の放射脈を有し、脈數甚だ

多し、裏面より透し見るときは鼈甲樣の彩色を呈す。小笠原に產する**カサガヒ** (*H. nigrisquamatus* Rve.) は大形にして高く笠形をなし、螺頂は略ぼ中央に位し、大小の放射肋は結節狀を呈し、表面及窩心部は淡褐色にして套痕外部は雲母白色なり。

綱　雙神經類 (又は兩側神經類)　Class **AMPHINEURA.**

左右相稱の軟體動物にして、神經系は四條 (側神經二條、腹神經或は足神經二條) 平行して腦神經節に相會し、他の神經節は微小なるか或は發達せず、肛門は後部中央に位し、頭部は觸角或は眼を缺ぐ。

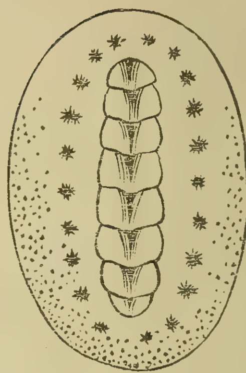
目　多板殼類　Order **POLYPLACOPHORA.**

此類は匍匐の用をなす長き足を具へ、背は八ヶの板殼に保護せられ、長さ五分許より五六寸に達するものあり、常に海濱に產すれども稀に深海にて漁獲せらるゝことあり、**石**下岩隙等に住し、岩等より之を離せば全身の筋肉を收縮し卷きて球狀をなす。

ケハダヒザラガヒ科　Family ACANTHOCHITIDÆ.

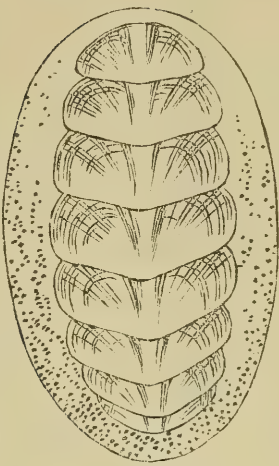
板殼は判然たる側區を缺ぎ平滑或は有毛の筋肉内に多少埋沒し、分布廣し。

ケハダヒザラガヒ（新稱）(*Acanthochites defilippii* Tap.-Can.) 全殼は楕圓形をなし、板殼小さく、肉帶は甚だ廣くして細毛を密生し、板殼は心臟形を呈し、尾板殼は小形にして兩側に切込を有し、殼の露出部は黑褐色なれども埋沒せる部分は綠色なり。



第六十八圖　ケハダヒザラガヒ（原圖）

ヒザラガヒ科　Family CHITONIDÆ.



第六十九圖　ヒザラガヒ（原圖）

本科中の或者は板殼上の一部に散布せる小眼を有し或者は眼を有せずして鱗狀帶を具へ、ヒザラガヒ類にありては後挿板縮少或は缺乏す。

ヒザラガヒ (*Liolophura japonica* Lischke) は濱海の岩上石下等に附着して徐々に匍匐し、之を剝す時は腹面に向て彎曲す、板殼は廣くして內面は褐黑色を呈し、肉帶には小突起を密生し、褐色と蒼白色を交彩す。

目　無板殼類　Order **APLACOPHORA.**

第七十圖



Chætoderma nitidulum Lov. (氏クック)

動物は蠕形にして板殼なく足を缺ぎ或は只一溝を有す。表皮は多少刺毛を被る、これまでは北太西洋と地中海の深海にのみ發見せられ、二科を有す即ち NEOMENIIDÆ 及び CHÆTODERMATIDÆ これなり。

綱　堀足類　Class **SCAPHOPODA.**

此動物の體は少しく曲り、凸面は腹にして凹面は背なり、頭は不完全にして足は尖りて突出することを得べく、外套膜の腹縁は結合して前後に開ける一管を造り、其外に同形の殼を被る、其單殼なることゝ、齒舌を有することゝは腹足類に類似せるも、其足の尖りたることゝ、一定の頭部、眼或は觸角を缺げることゝ、其諸器官の概して左右相稱なることと、其神經系統とは却て斧足類に類似せるを以て此類は正に兩者の中間に位せるものと謂ふべし。

ツノガヒ科 Family DENTALIIDÆ.

殼は牙形を呈し、平滑或は肋を有し、殼口より開口せる殼頂に至るに從ひ漸々狹窄し、殼頂は簡單なることあり、淺き切込あることあり、深き裂目あることあり或は穿孔せる栓を有せることあり、足は三裂せり。

第七十一圖



ムカドツノガヒ（原圖）

ムカドツノガヒ (*Dentalium hexagonum* Gould) 中部本邦に產し、六角を有せる白色牙形の空管にして多くは深海の泥砂中に棲息せるも死殼を砂濱に打上げたること少からず、動物は頭、觸手、眼、心臟及鰓を缺ぎ、齒舌、外套膜及尖りたる足を有し、硅藻、有孔蟲、小甲殼類等を餌食す、野蠻人中には此殼を絲に貫きて裝飾或は貨幣に使用するものありと云ふ。**マルツノガヒ** (*D. vernedei* 'Hanley' Sowb.) は長凡四寸に達し、細縱脉を刻し、圓筒狀をなし。**ツノガヒ** (*D. weinkauffi* Dunker) はマルツノガヒに類似し稍々小形にして殼口附近の表面は平滑にして光澤を有す。

綱　斧足類　Class **PELECYPODA.**

二枚貝類は瓣鰓類とも稱し、其種類の多きこと、美麗、珍奇、高價なるもの多きことは腹足類に及ばざれども、其個數の多きことゝ有用なるもの多きことは遙かに腹足類に勝れり動物の外套膜は二大葉に分れ、體の左右兩側を覆ひ其外面に殼を分泌す、而して兩外套膜は往々多少結合し後方に延長して水管を造ることあり、殼の左右兩半は背部に靭帶ありて相結合し、其附近の殼縁は厚くなりて齒を具へ、蝶鉸を成せり、殼內には一ヶ或は二ヶの強き閉殼筋を有し、殼の內面に其附着痕を殘す、判然たる頭部或は齒舌を有することなく足は大抵大形且つ屈伸自在にして移動の用をなせども、或屬にありては極めて不完全なることあり、又或屬にありては足の後部に一種の腺を有し、これより貝絲を分泌して岩石等に附着することあり、簡單なる口は四ヶの唇瓣に圍まれて齒なく、食道は廣くして短し神經系は口上の大なる腦節と之に連れる體中の他の諸神經節とより成り、雌雄は異體にして雌體の卵は周圍の水中に雄體の射出せる精蟲によりて受精す、此類は地質學、化石學上に大切なるのみならず、石灰を生じ、眞珠を孕み、人類及他の動物の食料として頗る有益なり。

目　隔鰓類　Order **SEPTIBRANCHIATA.**

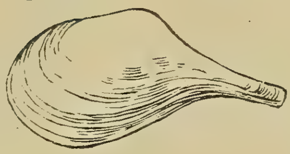
外套縁は三點にて連絡し、鰓の代りに前閉殼筋より兩水管の分離點に亘れる筋肉質の隔膜を具へ之に相稱的の孔を穿てり、二科を含む。

シヤクシガヒ科　Family CUSPIDARIIDÆ.

動物は雌雄異體にして、水管長く其一部連合し、足短し殼形小さく、左右不等にして嘴を有し、眞珠質をなさず、各殼片はヒ形の靱帶狀軟骨を具へ、石灰質の一小骨を有し主齒及側齒は或は之を具へ或は之を缺ぐ只一屬を含む。

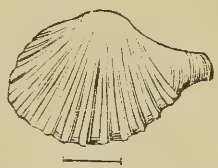
シヤクシガヒ（新稱）(*Cuspidaria* sp.)　殼質薄く、略ぼ楕圓形をなし、後方に柄狀部を有し、其末端開け、表面平滑内外共に白色なり、長さは嘴を加へて凡そ一寸、紀伊等に產す。

第七十二圖



シヤクシガヒ（原圖）

第七十三圖



ヒメシヤクシガヒ（原圖）

ヒメシヤクシガヒ（新稱）(*Cuspidaria* sp.)　は殼形微細にして十數條の强き放射肋を具へ内外共に白色を呈し、右殼片は左殼片よりも少しく小なり。

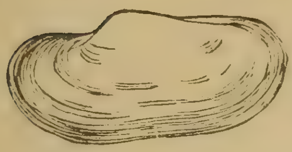
目　正瓣鰓類　Order EULAMELLIBRANCHIATA.

外套縁は一箇所以上にて連合し、鰓絲は脈管によりて結合せられ、其下行部とも亦連絡を有し鰓の上腔をなし、大抵前後二閉殼筋を有す。

亞目　翁貝類　Suborder **ANATINACEA.**

外鰓襞は背方に向ふ、反曲せず、雌雄同體なり、外套縁は大部結合し、大抵貝絲を缺ぎ、二ヶの閉殼筋を具へ、套痕は變化多く、殼の裏面は大抵眞珠質なり。

第七十四圖



オキナガヒ（原圖）

オキナガヒ科　Family ANATINIDÆ.

水管長く分離し或は連合す、殼質薄く、左右の殼片は時に不等なり、表面は往々顆粒狀を呈し、蝶番には齒を缺ぎ或は薄板を有す。

オキナガヒ (*Anatina japonica* Lischke) は長凡一寸二三分、殼質脆薄、長方形白色にして前後兩端開き、往々雲母樣の光澤を有す。

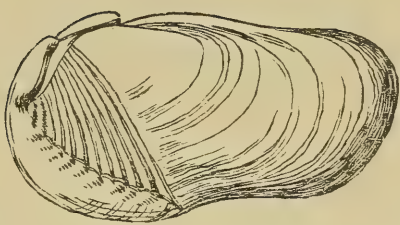
亞目 鷗貝類 Suborder **PHOLADACEA.**

外套緣は大抵閉塞し、水管長くして連合し、足短く、截切狀、圓盤形を呈し、靭帶を缺ぎ、二ケの閉殼筋を具へ、動物は他物を穿ちて其內に住す。

カモメガヒ科 Family PHOLADIDÆ.

殼質脆薄、白色にして、兩端開き、前部に鑢狀の彫刻を有し、蝶鉸或は靭帶を缺ぐも、往々小さき補殼を具ふ、套痕の灣入は極めて大なり。

ニホガヒ (*Pholas manilensis* Phil.) 濱海の泥岩中に穿孔して棲息せる白色の貝にして、二枚の主なる殼の外、蝶鉸の邊に附屬の小殼片を具へ、殼面に鑢目狀の小突起を有し、或は之を用ひて機械的に岩石を穿つと云ひ、或は酸液を分泌して岩石を浸蝕すと云ひ、或は電氣を發して穿孔すと云ひ、未だ何れが眞なるやを知らざれども、電氣或は酸化作用によりて、此動物が發光するは明かなる事實なりとす、彼の有名なる伊太利國セラピスの塔の石柱の穿孔も亦此類の貝の作用にかゝる。此貝に似たる **ウミタケ** (*Pholas fragilis* Sowby.) は中國、九州等



第七十五圖

カモメガヒ(原圖)

の泥海に產し、其大なる黑色の水管を乾製すれば鯣に代用すべく、其內臟と共に煑食すれば頗る甘味なり。

カモメガヒ (*Pholadidea penita* Conrad) はニホガヒよりも大形にして略ぼ卵形をなし前端大くして圓く、鑢狀部の外に更に細脉を刻せる部ありて、ニホガヒに於けるよりも開口部狹し。

亞目　大野貝類　Suborder **MYACEA.**

鰓は甚しく後方に重疊し、外套緣には大抵三孔を具へ、足側扁にして、水管大きく、或は結合し或は分離す、二ケの閉殼筋を有し套痕は變化多し。

マテガヒ科　Family SOLENIDÆ.

殼は長形にして、兩端開けり、之を二亞科に分ち、甲を **マテガヒ**亞科 (Subfamily SOLENINÆ) と云ひ、結合せる短水管を有し、橫に長き殼の兩端は截切狀をなし、其一端に近く各片に一齒宛の蝶鉸を具ふ、乙を **アゲマキ**亞科 (Subfamily PHARINÆ) と名け水管長く、殼端圓く、背緣の殆んど中央に三齒と二齒との嵌合より成れる蝶鉸を有し、套痕の灣入は深くして圓し。

第七十六圖



マテガヒ（原圖）$\frac{2}{3}$

マテガヒ (*Solen gouldi* Conrad) **カミソリガヒ**とも稱し、殼質脆薄にして長方形をなし、不明瞭なる成長線を有し、滑かなる角質の表皮を被り、表皮を脱すれば白色なり、本邦に八九種を產し、**オホマテガヒ**は長さ四五寸に及び、**アカマテガヒ**は表皮を脱するも猶ほ帶黃色を呈し、成長線は銅色なり、皆淺海の砂中に鉛直の穴を穿ちて其中に棲息し、其穴に少許の食鹽を入るれば躍り出づ、九州及び中國地方にありては之を食用に供し、乾して清國に輸出す。

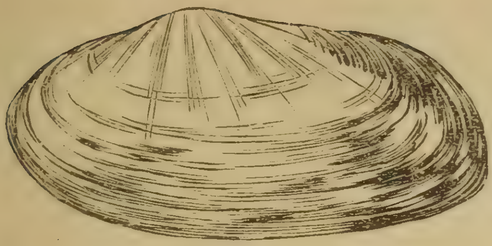
アゲマキ (*Solecurtus constrictus* Lam.) 殼質脆薄にして長さ凡そ三四寸其形マテガモに酷似せるも幅廣く、兩端圓く、蝶番は中央より稍々前方に偏し、肉は殼汁、羹付等として食用に供せられ、又乾製或は鑵詰として輸出せられ、九州有明海にありては極めて有利の產物となれり。

オホノガヒ科　Family MYIDÆ.

殼質稍々厚くして強く、後方開き、左殼に一ケの箆狀軟骨突起を有し、表皮は皺狀を呈す。

オホノガヒ (*Mya arenaria japonica* Jay) 殼は楕圓形をなし、長さ二三寸、表面は暗灰色にして内面は白く、後端は前よりも狭く常に口を開き、呼吸管は互に結合して一本となり、伸張すれば殼長の四倍に達し、收縮するも全部を殼内に收むる能はず、淡水の混流する河口に住し、砂泥中に埋沒し呼吸孔のみを露はし、之より流入する食物を食ふ、分布極めて廣く、只我國のみならず外國にても食用に供する所ありと云ふ。

第七十七圖



マスホガヒ（原圖）

マスホガヒ科　Family PSAMMOBIIDÆ.

水管長く、連合せず、足大きく、貝絲を有せず、兩殼片は相等しく、長卵形をなし、兩端少しく開き、靭帶は殼外に位して著しく、各殼片には二ケの主齒を有し、側齒を缺ぎ、灣入深し。

マスホガヒ (*Psammobia elongata* Lam.) は殼質厚く、長形にして放射脉を有せず只曖昧なる紫色或は橙色の放射線を畫き、裏面は白色にして表面の彩色を透視す。**リウキウマスホ** (*Asaphis deflorata* Linné) は楕圓形を呈し、大小密なる放射脉を刻し、表面は帶白色、裏面は白色にして、紅或は紫色を彩る。

亞目　鑼貝類　Suborder **CARDIACEA.**

鰓は甚しく後方に反折し、外套緣に三孔を具へ、足は圓筒狀をなし、多少延長し或は水管を有し、或は有せず、一個或は二個の閉殼筋を具へ、套痕は變化多し。

インコガヒ科　Family CHAMIDÆ.

殼質厚く、兩殼片は等しからず、殼頂は亞螺狀をなし、蝶鉸の齒は一殼片に二ヶ、他殼片に一ヶあり、肉痕は大にして網狀を呈し、套痕に灣入なし、岩石等に着生す。

キクザル (*Chama semipurpurata* Lischke)　カキの如く片殼は岩石等に附生して不規則なる馬蹄狀をなし、他の片殼は其蓋となるを常とす、殼頂は右旋して右方へ傾き、帶白色にして、大抵他物を附着し、內面は白色にして所々に紫褐色を彩る。

第七十八圖



キクザル（原圖）

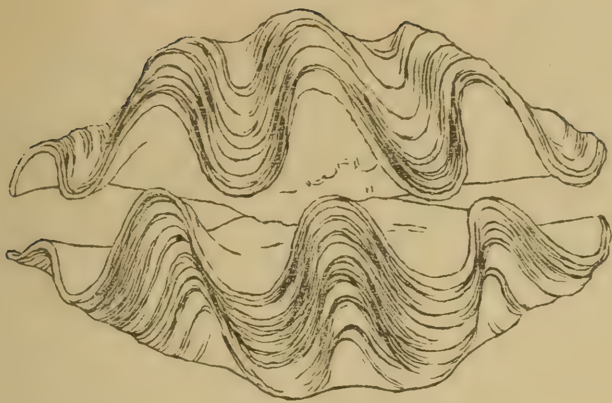
サルノカシラ (*Chama retroversa* Lischke)　キクザルに酷似するも殼頂は左旋して左方に傾き、キクザルとは全く反對に傾斜せり、內面には紫色を彩る。

シヤコ科　Family TRIDACNIDÆ.

殼は重厚にして兩片相等しく、前部は截切狀をなし、強大なる肋を有し、殼緣は齒牙狀を呈し、肉痕は曖昧なり、此類の化石は埃及及佛國南部の第三紀層より出ることあるも現生種は印度洋方面に限れり。

シヤコ (*Tridacna gigas* Lam.)　本種は最大なる貝類にして扇形をなし、長さ三四尺、厚さ七八寸に達し、時に長さ四尺五寸、重さ六十貫に達するものありと云ふ、殼質瑩白にして種々の裝飾品を製すべく、古より七寶中に列せられ往々楯木鉢、水盤等に用ひられ、西洋の寺院にては聖水盤に用ひらるゝ所ありと云ふ、動物は極めて美麗にして青き外套膜の緣に黃綠色の數眼を具へ其中心に鮮紫色を點し、足大きく、足絲を以て岩礁に固着す。

第七十九圖



シヤコ（原圖）　$\frac{1}{12}$

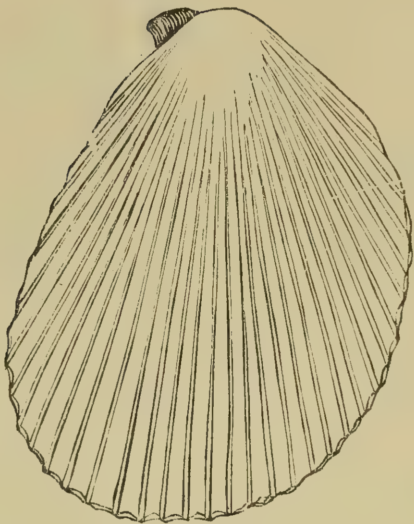
ナガジヤコ (*Tridacna elongata* Lam.) 殼は長形にして背緣の短き方に不規則なる大齒を具へ、其長き方は廣く開き以て貝絲を出すに便す、シヤコ類中の小形なるものにして、長三寸計り、時としては五寸に達するものあれども稀なり、本邦南部諸島に產す。

ザルガヒ科　Family CARDIIDAE.

水管稍々長く、足も亦長く、貝絲を缺ぎ、左右の殼片相等しく、多少の放射肋を具へ、蝶番は各殼片に一個或は二個の主齒を有し、側齒は變化多く、靱帶は殼外に位し二個の閉殼筋を具へ、半鹹水或は鹹水に產す。

キヌザル (*Cardium arenicolum* Reeve) 卵狀團扇形をなし、美麗なる放射脈を有して籃目狀の外觀を呈し、殼緣に齒を有し、齒間は紅紫色を彩り、內面白色、表面は淡黃褐色の地に褐雲を有す。

第八十圖



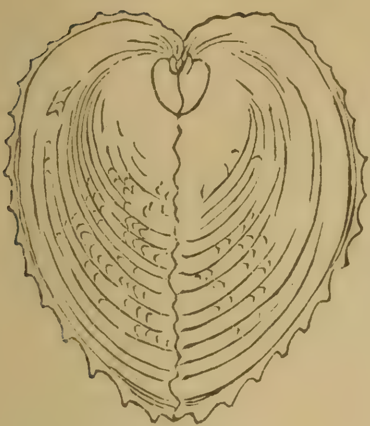
ザルガヒ（原圖）$\frac{3}{5}$

リウキウザルガヒ（新稱）（*Cardium rugosum* Lam.）はキヌザルよりも圓く、肋粗大にして帶白色に暗色點を有し、殼緣の齒間は白し。

ザルガヒ（*Cardium burchardi* Dkr.）は畧ぼ半圓形をなし、大形にして肋間狹く、彫刻密に斑紋はキヌザルに似て濃く黃色深く、殼緣の齒間は赤色なり。

トリガヒ（*Cardium muticum* Reeve.）殼質脆薄、畧ぼ圓形をなし脹れ、長二三寸、蝶番には一個の主齒と前後二個の側齒とを具へ、表面は鱗片ある放射狀の低隆起脉を有し淡黑色の表皮を被り、帶黃白色にして殼頂に微紅を彩る面內は肉紅色を帶び殊に緣邊は濃紅色を呈す、各地に產し、瀨戶內海、伊勢海等に多く、其肉殊に肉柱は食用に供せられ美味なり。

第八十一圖



リウキウアフヒ（原圖）

リウキウアフヒ（*Hemicardium cardissa* Linn.）高さと幅頗る大にして長さ尤も短く、兩殼を合して側面より見れば心臟形卽ち葵葉形をなし、左右の殼頂相接し、殼緣の細齒は互に嚙み合ひて垂直線を畫き、殼片中央の銳き縱龍骨は粗き鋸齒を具へて心臟形の輪廓を限り、左右

兩殼の低くして大なる放射脉は相合して輪脉狀の外觀を呈し、兩殼の前半部は中央脹れ、後半部は平坦にして僅かに蝶鉸附近に膨脹部を有し、前部を合せて表面或は上面と見れば後部は裏面或は下面なるが如く、二枚貝類中の尤も奇形なるもの丶一にして內面は白く外面は帶黃色なり。

亞目　文蛤類　Suborder **VENERACEA.**

鰓は少しく反折し、足は側扁にして、水管は槪して短く、套痕は變化多く、二個の閉殼筋を有す。

マツカゼガヒ科　Family PETRICOLIDÆ.

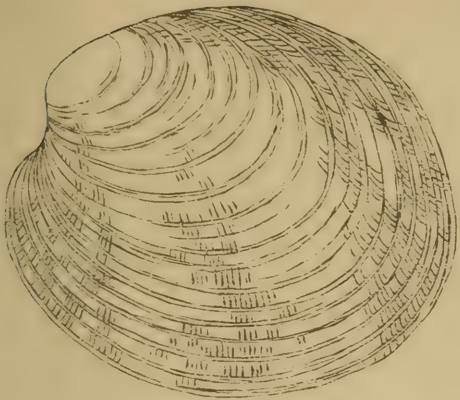
殼は白色にして、薄き表皮を被り、蝶鉸狹く各殼片に二齒を有し、兩片の吻合完全ならずして間隙を殘し、套痕の灣入大きく、往々軟岩及泥土を堀りて其中に棲息することあり。

マツカゼ (*Petricola monstrosa* Chemn.)　殼形不規則にして帶白色を呈し、岩石等の中に穿居し、左殼は小にして右殼に包まれ、極めて不規則なる粗き成長線を刻す、長凡五六分中部日本に產す。

ハマグリ科 Family VENERIDAE.

殼の蝶鉸は大抵兩片に三ヶ宛の分開せる歯を有し、肉痕は卵形にして光澤强し、種類頗る多く、形狀、彫刻、彩色等の變化亦頗る著しく、其壯麗なること二枚貝に冠たり。

第八十二圖



ヌノメガヒ（原圖）

ヌノメガヒ (*Cytherea puerpera* Linné) 本邦南部に産し、長凡二寸、殆んど圓形をなし、殼質厚く、殼縁に細歯を有し、輪脉は葉狀の隆起を具へ、美麗なる放射脉と相交はりて布目狀をなし、表面は白色にして後半部は褐色を彩り、前半部にも所々に褐彩褐點を有し、內面は白色にして後肉柱痕部に鮮紫色を點し、中央は淡柑色を呈することあり。

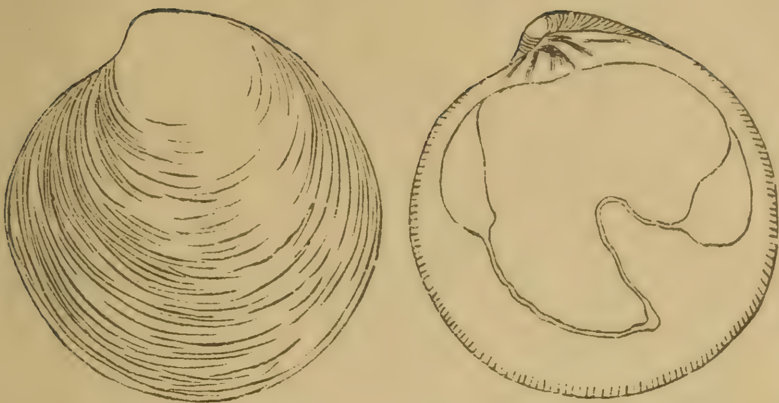
シラヲガヒ (*Circe scripta personata* Desh.) 殼質稍々厚く扁平にして、ワスレガヒよりも小さく、輪脉粗く、殼縁に細歯を有せず、內外共に白色にして、表面の略ぼ中央に褐色並行折線及び其前後に同色の二帶を有す。

ハマグリ (*Meretrix meretrix* Linn.) 殼は略ぼ三角形をなし、表面平滑にして蝶鉸には二ヶの主齒と二ヶの側齒とを有し、全面暗栗色にして花紋のなきものを **アブラハマグリ** と云ひ、大さ二三分にして紋彩一定ならざるを **コハマグリ**、徑碁石大にして黑白二種あるものを **ゴイシハマグリ** と云ひ、其外色白く唇厚く徑三四寸に渉る、**テウセンハマグリ**(白の碁石を作るゴイシハマグリ)など數多あれども皆異名同物なり、我國到るところの海濱に產すれども、東北地方及北海道、日本海沿岸には稀にして、肉は食用となし、殼は藥品の容器、白碁石の原料とし、昔時貝覆に用ひ現今にても種々の玩具を作ることあり。

オキアサリ (*Gomphina donacina* Chemn.) 殼はハマグリに似るも更に扁平にして三角形に近く、前方圓く後方稍や尖り、彩色變化多く白色乃至淡褐色の地に放射狀の帶或は線紋を有し、後側面は概して暗色なり、長凡一寸五分、中部日本に產す、其味は美なり。**コタマガヒ** (*G. melanægis* Römer) は大形にして、腹緣に一亞角を具へ渦脈はやゝ粗なり。

ワスレガヒ (*Sunetta excavata* Hanley) 殼厚く、扁平にして、前方稍や尖り、後方圓く彫刻なく殼緣に細齒を具へ、表面は淡紫色の地に紫色の數帶と花形の細紫線とを有し、やゝ厚き表皮を被り、內面は白色にして兩肉柱痕部及び套痕部に鮮紫色を彩る、我國瀨戶內海に多く產す。

第八十三圖



オキシジミ（原圖）

オキシジミ (*Cyclina chinensis* (Chemn.)) 類圓方形にして、高く蝶番の歯は三ヶあり、布目樣の彫刻細やかに、表面は黄褐色の表皮を被り、內面白く、殼緣は細歯を刻し、周緣は淡紫色を彩る、本邦中部及南部に產し、清國にも及ぶ。

オニアサリ (*Venus jedoensis* Lischke) アサリよりも脹れて短かく、殼質厚く、鉸歯は三ヶあり、殼緣に細歯を有し、放射肋粗く、瓦甍狀をなし、鬼淺理の名に背かず、表面は淡褐色にして內面は白色なり、本邦中部に產す。

ウチムラサキ (*Saxidomus purpuratus* Desh.) 殼質厚く、長さ凡そ三寸、表面は帶黃汚白色にして粗き共心的の渦脈を刻し、內面は暗紫色を呈し、諸痕明瞭なれば俗に之を天橋立に見たて橋立介と稱し、丹後產の標品は特に之を貴重するも、瀬戸內海にも多く產し

敢て珍貝と稱するに足らず、肉はオニアサリと共に食用に供せらる。

アサリ (*Tapes philippinarum* Ads. & Rve.) 殼は略ぼ卵形をなし、表面の彫刻粗糙にして布目狀を呈し、薄茶色に白斑あるを常とす、往々紅色、黃色乃至紫色を呈するものありて、**ベニアサリ**、**ヤマブキ**、**アヅマウタタ**、**シラキジ**、**カノコ**など種々の名あれども皆同種なり、かく種々の斑紋彩色あるは所謂保護色なるべし、全國到る所に多く產し、食用に供せらる。**ヒメアサリ** (*T. variegatus* Hanley) は共に廣く產し、小形にして、細長なり。

ヒメスダレ (*Tapes greeffei* Dkr.) 殼質厚く、長形にして、粗大なる渦脈を有し、表面は肉褐色の地に栗色斑の放射帶を有し、內面は白色にして、中央は淡紅色を彩る。**スダレガヒ** (*T. euglyptus* Phil.) はヒメスダレよりも大形にして長く、輪脈は更に著大にして密接せる肋をなし、放射帶は斷續せるも濃色にして著明なり、內面は白く紅彩を有することとなし。

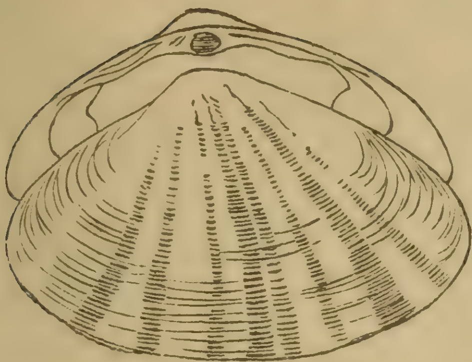
亞目　皿貝類　Suborder **TELLINACEA.**

水管長くして分離し、足及び唇瓣は甚だ大なり、套痕の灣入は深く、二ヶの閉殼筋を有す。

ウバガヒ科 Family MACTRIDÆ.

殼は厚き表皮を被り、殼頂下にありて三角形をなせる軟骨の凹所はV字形の主歯にて縁どられ、套痕の灣內は淺くして圓し。

第八十四圖



バカガヒ（原圖）$\frac{3}{5}$

ウバガヒ (*Mactra sachalinensis* Schrenk) は又**ホツキガヒ**とも稱し、殼質厚く、脹れたる楕圓形にして、長三寸餘、暗褐色の表皮を被り、殼頂は多く露出す、內面白く、蝶番に一ヶの主歯と、强大なる前後の側歯とを有し、右殼の側歯は分岐し、內靭帶は頗る大なり、北海道及三陸地方東海に多く產し、其肉は專ら干して食用に供せられ頗る美味なり。

バカガヒ (*Mactra sulcataria* Desh.) 殼質脆薄にして長二寸五六分、蝶番の歯及靭帶の狀はシホフキに酷似し、表面は黃褐色を呈し、殼頂より腹線に向へる數條の濃褐色線を有し、足は長く、且つ赤くして屈曲し、往々之を用ひて

跳躍す、專ら東海に產し、肉剛く、味甚だ美ならず、主として肉柱を販賣す。

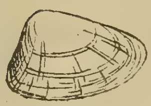
シホフキ (*Mactra veneriformis* Desh.) 殼は脹れたる卵圓形をなし長さ一寸二三分、蝶番の主齒は只一ヶありて其後に內靭帶を具へ、側齒は前後にありて割合に長く、表面に微かなる輪脈を具へ、淡褐色にして腹緣に近く淡紫色を彩り、表皮を脫すれば光澤甚だ美はし、專ら東海に產し、アサリと同樣の海底に住し、肉は柔かに過ぎて上品ならず。

ミルクヒ (*Tresus nuttalli* Conrad) 此の貝はオホノガヒに類似し、殼は楕圓形をなし、前後兩端共に口を開き、表面は暗褐色を呈し、內面白く、長さ五寸に達す、重に東海に產し、專ら水管を食用に供す。

ナミノコガヒ科 Family DONACIDÆ.

外鰓絲は腹方に向ひ、殼は左右兩片相等しく、亞三角形をなし、堅固、平滑にして、各殼片に二三ヶの主齒を有し、側齒は變化多く、靭帶は外方に位す。

第八十五圖



フヂノハナ(原圖)

フヂノハナ (*Donax proximus* Bertin) 殼は小三角形白色にして、後側面は鑢樣の彫刻を有し、截切狀をなし汚綠色を彩り、前方は稍や尖りて平滑なり、內面は白色にして中央及

後部は紫褐色を彩り、腹縁は細歯を刻す。**ナミノコ** (*D. australis* Lam.) はフヂノハナよりも大形にして前後兩端圓く、帯白乃至淡褐の地に暗色の放射帯及輪樣帯を有し、内面は紫色を帯び、腹縁に歯を刻せず。

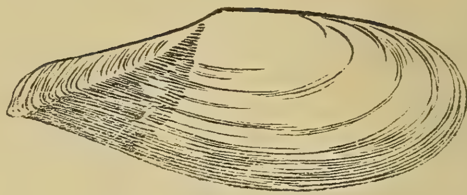
サラガヒ科　Family TELLINIDÆ.

殼は側扁にして兩端閉ぢ、蝶鉸には大抵二ヶの主歯と前後各一ヶの側歯とを有し、灣入深く、殼の短かき方に外靭帯を具ふ。

イソシジミ (*Soletellina olivacea* Jay) 殼は楕圓形にして、甚だ扁平なり、光澤ある淡栗色の表皮を被り、内面は紫色を帯び、外見稍々ドブガヒに似たり、本邦中部及北部に産し、長一寸五六分なり。

ベニガヒ (*Tellina vulsella* Chemn.) は長一寸乃至二寸、本邦中部以南に産し、細長にして、前端圓く、後端尖りて少しく右へ曲り、質脆薄、表面に微細なる輪脈を密に繞らし、光澤強く、内外とも一樣に美はしき紅色にして恰も染色せしものゝ如し。**サクラガヒ** (*T. nitidula* Dkr.) は小さく一層脆薄にして楕圓狀をなし、後端はベニガヒの如く尖ることなし、内外共に帯紫紅色を呈し、腹縁に近く數條の帯白色の渦線を彩り、一見櫻花瓣の觀を

第八十六圖



ベニガヒ(原圖)

呈す、ベニガヒと共に玩具及貝細工に用ひらる。

ダイメウガヒ (*Tellina staurella* Lam.) 本邦南部に產し、長形扁平にして、後部は少しく右方に曲りて其端尖り、殼面の輪脉精細美麗にして、白地に日出模樣の紅色放射紋を有し、內面は光澤ある黃色なり。

サラガヒ (*T. venulosa* Schrenk) は北海道に產し、大形、純白色にして表面平滑、光澤强し、長三寸餘に達す。

サメザラ (*Tellina scobinata* Linné) 圓形扁平にして、輪脉は鱗樣或は葉狀隆起脉をなし、粗き鑢狀或は鮫膚狀の外觀を呈し、白色の地に粗らに淡柑色の點紋を散布せり。

シラトリガヒ (*Macoma nasuta* Conrad) サラガヒよりも遙かに小形にして表面粗造、白色にして光澤なく、前後兩側齒を缺ぐ、內面は白色又は淡黃色なり。**ヒメシラトリガヒ** (*M. inquinata* Desh.) は小形脆薄にして表面滑かなり、共に本邦中部以北に產す。

オホモモノハナ (*Macoma praetexta* Mart.) 一方尖りたる扁平卵形をなし、殼質薄く、彫刻密にして、略ぼ平滑なり、內外共美麗なる淡紅色にして、腹緣は淡色なり。

外套縁は多少開き、肛門判別し、概して水管を缺ぎ、套痕簡單にして、主歯及側歯は著明なり。

亞目　亞淡菜類　Suborder **SUBMYTILACEA.**

シレナシジミ科　Family CYRENIDAE.

殼は厚き角質の表皮を被り、蝶鉸に二三の主歯及側歯を有し、套痕は少しく内曲し、老殼の殼頂は多く浸蝕せらる、半鹹水及淡水に住す。

マシジミ (*Corbicula leana* Prime)　食用貝類中最も普通にして且つ多量に産し、主もに剝身として販賣せられ、本邦産は十種以上に區別せられ、殼は心臟形をなし、表皮黑くして光澤を帶び、求心性の脉を刻し、内面は紫色を帶ぶ、往々螺佃細工の原料に供せられ、蝶番に三ヶの主歯と細鋸歯を有せる前後二ヶの側歯とを具ふ。**セタシジミ** (*C. sandai* Reinh.)　は高き三角狀をなし、殼頂頗る大きくして突出し、蝶番は甚しく强厚なり、琵琶湖及瀨田川に産し、表面

第八十七圖

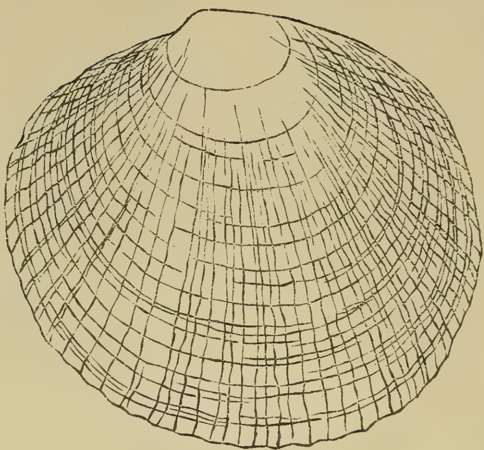


マシジミ（原圖）

橙黃色或は暗褐色を呈し、京都方面に販賣せらるゝは多く此種なりとす。

ドブシジミ (*Sphærium heterodon* Pils.) 殼質薄き大豆大の小貝にして美麗なる細輪脈を刻し、灰色にして淡水の泥中に產す。

第八十八圖



ツキガヒ（原圖） 4/5

ツキガヒ科 Family LUCINIDÆ.

殼は圓形をなし、一ケ或は二ケの主齒と前後に一ケ宛の側齒とを有し、肉痕は粗糙なり。

ツキガヒ（新稱）(*Lucina* (*Codakia*) *tigerina* Linné) 本邦南部に產し、殼質厚く圓形をなし、表面は白色にして縱橫の溝を刻し、鑢膚狀をなし、內面は黃色を呈し、背緣は赤色を彩る。

ウメノハナガヒ (*Lucina pisidium* Dkr.) 細小圓形白色にして其外觀梅の花瓣の散りたる如し、主として貝細工に用ひられ、中部日本に產す。

カラスガヒ科　Family UNIONIDÆ.

淡水に産し、殼は眞珠質にして厚き暗色の表皮を被り、外靱帶は大きく、前鉸齒は厚くして脉を有し、後鉸齒は薄板狀をなし或は之を缺ぐ、肉痕深く、前肉痕の後方に二ケ、後肉痕の前方に一ケ、合して三ケの牽足筋痕あり、我國には凡二十種を産するのみなれども米國には凡千六百種を産すと云ふ。



第八十九圖　カラスガヒ（原圖）$\frac{2}{5}$

カラスガヒ (*Cristaria plicata* Leach) 殼質脆薄にして長楕圓形をなし、往々尺餘に達し殼頂脹れ、其前後に耳を張り、幼貝にありては殊に著し、表面黑く、往々綠色を帶び、幼殼は黃色、褐色等の紋を交へ、老殼は常に殼頂禿げて眞珠質を露出す、蝶番には後方に唯一ヶの大なる側齒を具へ、靱帶は薄弱なり、內面は靑白色を呈し光澤美はし、東洋の特産にして、多少潮の差引ある瀉などに住し、常陸霞ヶ浦は其名産地なり、支那にては之より眞珠を採り又人工的に眞珠を造ると云ふ。琵琶湖に産するものは **ドブガヒ** (*C. spatiosa* Cless.)と稱し、蝶番の側齒一ヶを具へ、其後方に翼狀部を有し、表面は黑色、內面は紅彩ある淡肉色を呈す、其肉は貧民の食用に供せらる。

エカキガヒ (*Hyriopsis schlegelii* Mart.) 形狀、彩色、大さ、住所、效用共にドブガヒに酷似せるも、重厚にして幅薄く、翼部大きく、蝶鉸の齒は前側齒左右各二つ、後側齒は右に一ヶ左に二ヶあり。

マツカサガヒ (*Nodularia japanensis* Lea) 長凡二寸、表面に殼頂を中心として皺襞を有し、其彫刻やゝ松毬に類す、效用、住所、彩色等はカラスガヒ及エカキガヒに異ることなし。 **ヒメカラスガヒ** (新稱) (*N. nipponensis* Mart.) は細長にして表面平滑にして黑色を呈す。

カハシンジユガヒ (*Margaritana margaritifera* Linn.) 殼は長楕圓形にして長さ四寸に達し、殼頂は著しく前方に偏り、右殼片に一枚、左殼片に二枚の强齒を具へ、表面は光澤ある純黑色、內面の眞珠質は靑白又は淡紅を呈し、殼質厚きを以て貝細工の原料に適す、北海道の諸川及北上川より飛彈に擴りて棲息し、琵琶湖以西には之を見ず、本種は分布極めて廣く、加奈太、英國、歐洲大陸、西比利亞より北海道に至るまで產せざる所なしと云ふ。

第九十圖



エゾシラチガヒ（原圖）

エゾシラヲガヒ科　Family ASTARTIDÆ.

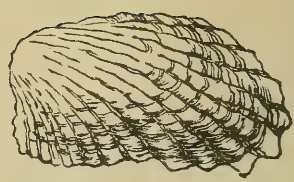
殼質厚く、亞三角形をなし、外靭帶と二三ヶの强主齒とを有し、側齒は曖昧なり、淺き渦脉を刻す。

エゾシラヲガヒ（新稱）(*Astarte arctica* Gray) 殼は蜆形をなし、暗褐色の表皮を被り、殼頂は大抵侵蝕せられ、內面は白色なり、長、高共に一寸二三分、千島に產す。

トマヤガヒ科　Family CARDITIDÆ.

足は貝絲或は溝を有し、鰓は大きくして不等なり、左右兩殼

第九十一圖



トマヤガヒ（原圖）

片は堅固にして相等しく、放射溝を刻し、一二ヶの主歯及一二ヶの側歯を有す。

トマヤガヒ (*Cardita cumingiana* Dkr.) 殼は不等邊長方形をなし、少しく腹方に向て彎曲し、放射肋は强大にして粗き鱗狀突起を生じ、對角線に當る所は著しく隆起し全殼をして楔狀を呈せしむ、表面淡褐色をなし、內面は白色にして背部には往々栗斑を有す、長凡一寸、本邦の中部及南部に尤も普通なり。

目 擬瓣鰓類 Order **PSEUDOLAMELLIBRANCHIATA.**

外套緣は全く開け、足は發達せず、前閉殼筋は大抵不完全なり、鰓絲は反折して兩々相連絡し、其連絡部は往々脈管を通ず。

メンガヒ科 Family SPONDYLIDÆ.

殼は兩片不等にして、右殼大きく、其頂端にて着生し、蝶鉸の歯は各殼片に二ヶ宛あれども間々之を缺ぎ、表面に放射肋を具へ、往々刺を有することあり。

シヤウジヤウガヒ (*Spondylus regius* Linné) 殼質厚く、略ぼ圓形をなし、凡そ六條の強き放射肋を具へ、各肋より數ヶの長き突起を出し、肋間には密に大小の放射脉を刻し、之に鱗狀の鋭き小突起を密生し、頂部附近は淡朱色をなし縁部に至るに從ひ漸々鮮朱色を呈す、内面は縁部に鮮朱色を繞らし、其他の部分は白色に微紅を帶び斜に之を窺ふときは美麗なる絹紫色を呈す、時としては表面一樣に麗はしき紫紅色を呈することあり、卷頭第二圖に示せるは此の貝にして、美麗珍貴高價なるを以て古來有名なり。

メンガヒ (*Spondylus sinensis* Sowb.) は大小の刺シャウジャウガヒよりも多數にしてチリボタンの刺よりも著しく長く、扁平にして先端廣がり、不規則に彎曲す、シャウジャウガヒの如く全面に小刺を有することなく、表面、刺及内面の縁は茜色を呈す、時として灰白色の地に褐色の雲紋を彩ることあり。**チリボタン** (*S. cruentus* Lischke) は大抵歪み、放射脉よりは不規則なる短かき鱗片狀刺を簇生し、表面は紅色或は紫褐色を呈し、内面は白色にして其縁は暗紫色又は紅色をなす。

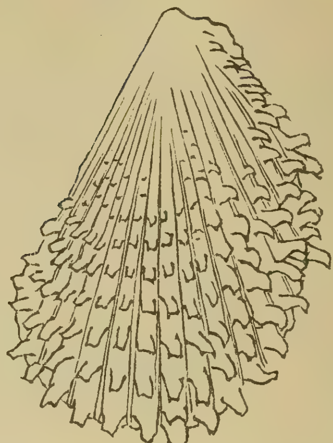
ミノガヒ科　Family LIMIDÆ.

殼は白色にして兩側開き、殼頂に耳狀部を具へ、蝶鉸に齒なく、内方に三角形の軟骨坑

を有し、海扇類（ホタテガヒ類）の如く、殼を開閉して水中を進行することを得ると云ふ。

ミノガヒ (*Lima lima* Linné) 歪圓扇形をなし、稍々略ぼ直角三角形を呈し、放射肋は覆瓦狀をなし、規則正しき鱗片狀突起を生じ、蝶番の齒なく、內外共に白色なり、中部以南の海に產し、時としては長四寸に超ゆることあり。**キツ子ガヒ** (*Lima orientalis* Ads. & Rve.) ミノガヒよりも著しく小形にして、彫刻細密鱗片を缺ぎ、左右の殼片は互に吻合せずして前後に稍廣き間隙を殘し、內外共に純白色にして、長凡一寸二三分、本邦中部以南に產す。

第九十二圖



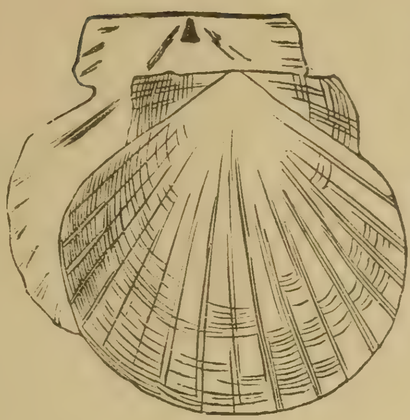
ミノガヒ（原圖）$\frac{1}{2}$

ホタテガヒ科　Family PECTINIDÆ.

殼は着生或は離生し、兩片不等にして、放射肋を有し、內靱帶は殼頂の凹部內にあり、概して耳狀部を具へ、蝶鉸は短直にして、往々分開せる數ヶの不完全なる齒を有す、本邦に二十餘種を產す。

ホタテガヒ (*Pecten yessoensis* Jay) 殻の兩片不同なるはカキに似るも此の貝は右片を下にし、右片深く、左片扁平なり、往々兩片を開閉して海中を跳躍することありと云ふ、殻面に三十餘條の射出脉を有し、殻頂の前後に耳形の突起を具へ、蝶番線は直線をなし、其中央に大なる靭帶を容るゝ穴あり、表面は淡紅褐色を彩り、內面白く、中央に一大柱痕を有し、殻徑往々七寸に達す、北海道及青森灣の名產にして、動物殊に其肉柱は頗る美味なり、殻の小なるものは小皿とし、大なるものは小鍋に代用せらる。

第九十三圖



ホタテガヒ（原圖）　$\frac{1}{5}$

ヒアフギ (*Pecten crassicostatus* Sowb.) は左右兩殻片略一様に脹らみ、放射肋は判然として高く二十三四條を數へ時として肋間更に一條の細脉を有し、肋上は密に鱗狀隆起薄板を具ふ、大さ凡五寸に達し、淡褐、紅、紫、鮮紫、黃、橙等彩色變化多し、中部日本に產す。　**リウキウアフギ**（新稱）(*P. radula* Linn.) は小形にして狹く、高く、前後兩半は少しく形を異にし、放射肋は强大にして數少く、僅かに十條內外を數へ、肋上及肋間には更に細放射脉を刻す

帶白色にして、淺き殼片の表面にのみ斷續せる栗色の渦狀帶を有し、長さ二寸五分、琉球諸島に產す。

ナデシコガヒ (*Pecten irregularis* Sowb.) 殼は一寸許り、卵狀をなし扁平にして、不規則なる放射脉を密に刻し、質脆薄にして、彩色斑紋變化多く、鮮かなる褐色、紅色、紫色黃色、白色等ありて美麗なり、琉球諸島より產するものは圓狀をなし稍々大形にして一層脆薄、彫刻は稍々滑かなり、學名は *P. squamosus hybridus* Lam. と稱し、彩色多樣美麗なり、**リウキウナデシコ**（新稱）と稱す。

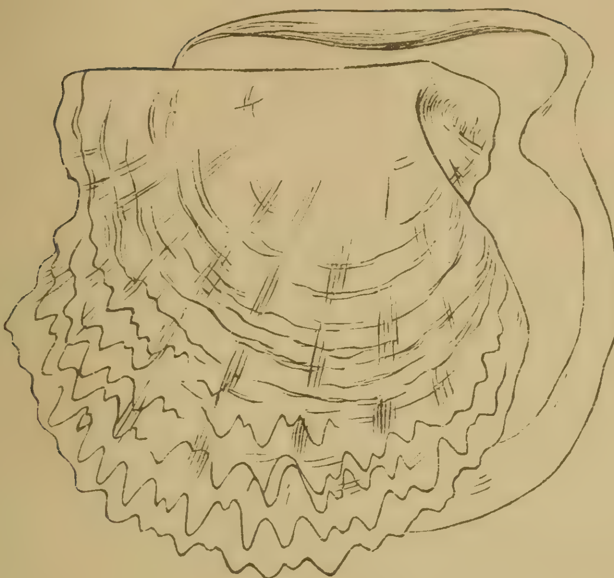
イタヤガヒ (*Vola laqueata* Sowb.) ホタテガヒに似て小さく、稍々楕圓狀をなし、長徑四寸餘、殼面の放射脉は十三條に過ぎず、專ら南海に產し、肉の美味なることホタテガヒに讓らず、往々ホタテガヒと誤解、誤稱さるれども一殼片は扁平にして却て中央部凹み、他片は甚しく脹らみ、直に識別せらる、古來貝杓子に用ひらる、俗に杓子貝と稱す。

ツキヒガヒ (*Amusium japonicum* Gmel.) 殼質薄く、圓形にして扁平なり、表面平滑にして光澤強く、一殼片は紫赤色をなし、他片は淡黃白色なり、其肉は食用に供し、肉柱は殊に美味なり、殼は美麗なるを以て往々皿として販賣せらる。

シンジユガヒ科　Family PTERIIDÆ.

殼は兩片不等にして斜向し、右殼小さく、內部は眞珠質をなし、表皮薄く、螺鉸線は長くして直く、其齒は曖昧なり、殼頂は前方に位し、耳狀部を有し、後耳は翼狀を呈す、右殼を下にし、貝絲を以て着生す。

第九十四圖



アコヤガヒ（原圖）

マベ (*Pteria macroptera* Lam.) 殼は烏帽子狀にして後部は斜に後方に延長し、耳部大きく、表面は黑色、內面は紫色を帶びたる濃眞珠色を呈す、大なるものは長さ一尺餘に及び、琉球に產し、貝釦及貝細工の原料となる。

アコヤガヒ (*Meleagrina martensii* Dkr.) 珠母又は **シンジユガヒ** と稱し、殼は扁平巾

第九十五圖



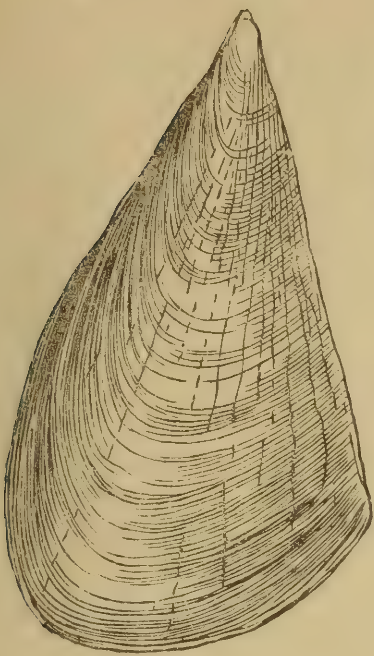
シュモクガキ(原圖) $\frac{1}{3}$

着狀、長さ三寸に達し、殼頂は前方に偏し、蝶番は水平にして齒なく、廣き內靭帶を以て結合せられ、前後の兩耳は廣く突出し前耳の本に足の絲を出すべき缺刻を具ふ、表面は帶蒼暗褐色にして黑色の放射紋を有し、表皮は相重なれる薄片より成り、內面は閃光燦爛たる眞珠色なり、專ら西南の暖海に產し、優等の眞珠を出すを以て往々養殖せられ、肉は食用とすれども美ならず、なほ殼は青貝の上品なる材料、釦鈕の製造等に用ひらる。

クロシュミセン (*Malleus vulgaris* Lam.) 殼質カキに似て脆く、層間に空隙を有して發泡狀を呈し、丁字形にして大抵一方に曲り、內外共に帶紫黑色を呈す、專ら南部の海に產す。**シュモクガキ** (*M. albus* Chemn.) は**シュミセン**とも稱し、內外共汚白色にして、正しき丁字形にして大抵曲ることとなし。

タヒラギ科 Family PINNIDÆ.

殻は楔形を呈し、左右兩片相等しく、殻頂は前端に位し、後端は截切狀をなして開き、強き貝絲は大なる三重の筋肉によりて兩殻片の中央に附着す、外國產には長さ二尺に達するものありと云ふ。



第九十六圖

タヒラギ（原圖）$\frac{1}{5}$

タヒラギ (*Pinna japonica* Hanley) 殻形稍々直角三角形をなし、殻質脆薄微透明にして暗綠色を帶び、肉柱頗る大きく、肉は甘味多く、汁の實として食用に供せらる、肉柱尤も美味なり、九州有明海沿岸にありては肉柱を罐詰となして諸方に輸出す、此類の貝絲は絹絲樣の光澤を有し、外國にては往時之を以て手套等を製せしことありと云ふ。 **ハバウキガヒ** (*P. attenuata* Menke) 殻は細長にして一尺餘に達し、扁平なる棒

第九十七圖



マガキ（原圖）

狀をなし、左右兩殼片の中央には殼頂に近く縱裂を具ふ、共に本邦中部に多く産す、本種の貝絲は大總にして殊に美麗なり、眞珠をも産すれども極めて劣等なり。

カキ科 Family OSTRÆIDÆ.

殼は着生或は離生し、蝶鉸に齒なく、內靭帶を有し、肉痕は中心の後に位し、套痕は曖昧なり。

マガキ (*Ostræa talienwhanensis* Crosse) 食用貝類中の最も主要なるものにして、古今東西貴賤の別なく之を食用に供し、歐米または我國にても之を養殖し英國倫敦にて年々消費する所四五萬圓に達し、我國廣島縣の安藝、佐伯の二郡のみにても年々二萬數千圓に上ると云ふ、殼は左片大きくして凹み、下にありて肉を收め、右片は扁平にして蓋と

なり、中央に唯一ヶの肉柱を有し、附着生活をなすを以て足は發達せず、殼は他の貝殼類と同じく貝灰を製せらる。**エゾガキ** 又は **ナガガキ** は長く大形にして一尺五寸に達し、從來別種と認められ、學名も *O. gigas* Thunberg と用ひられたりしが、研究の結果全く本種と同一物なるを確かむるに至れり。

イタボガキ (*Ostrea denselamellosa* Lischke) は九州及瀬戸内海等に産し、殼形稍々圓く殼頂マガキの如く突出せず、表面は蒼天色にして、葉狀片は細かく、腹縁に近くに從ひ緻密に相重なり、内面は白色なり、他物に附着せず多く離生し砂泥中に埋れ、其肉は頗る美味なり。

目　絲鰓類　Order FILIBRANCHIATA.

鰓絲の列は平行して腹方に向ひ且つ反折し、其間に纖毛ある連絡を有し、足にはよく發達したる貝絲を有す。

亞目　淡菜類　Suborder MYTILACEA.

外套縁は一點にて癒合し、肛門判別し、前端閉殼筋小さく、一ヶの大動脈を具へ、鰓は

葉間連絡を有す。

イガヒ科　Family MYTILIDÆ.

殼は長形或は卵形にして殼頂は前方に位し、表皮厚くして褐色を呈し、往々纖維狀をなし、內靱帶は極めて長くして、蝶鉸に齒なく、後肉痕は大形にして曖昧なり、動物は貝絲を生じて岩石等着生す。

イガヒ (*Mytilus crassitesta* Lischke) **イノカヒ**、**セトガヒ**、**シウリ**など稱し、殼質厚く楔形をなし、長さ三四寸、蝶番の齒小さく、外靱帶は長くして殼頂の前後に渉り、黑褐色の表皮を被り、往々種々の動植物の着生せることあり、內面は紫紅綠の色彩を交へ、甲斐絹の如き光澤を有し、稀に劣等の眞珠を出す、廣く本邦諸海に產し、貝絲を出して他物に着生し其肉は食すべく、乾製して多少淸國に輸出す。

ケガヒ (*Mytilus hirsutus* Lam.) 前端に殼頂を具へ、形狀彩色共にイガヒに似るも著しく小形にして、棕櫚毛狀の長毛を密生す、本邦中部に產す。

ヒバリガヒ (*Modiola barbata* Linné) 形狀及大さケガヒに類するも、殼頂は前端の少し後方に位し、毛少く、淡色にして紅色を呈す。



第九十八圖　ヒバリガヒ（原圖）

ホトトギス (*Modiola senhausii* Rve.) 兩及楔形を呈し、殼頂はヒバリガヒよりも更に後方に位し、殼質薄く、表面平滑、ヒバリガヒよりも小さく長一寸許、褐色にして緣部其の他に綠色を彩る。

クジャクガヒ (*Septifer bilocularis* Linné) 殼形ケガヒに似るも、毛茸短く尖りたる殼頂は內面に薄き隔板を具へ、褐色にして綠色を彩り、甲斐絹樣の光彩を放つ。

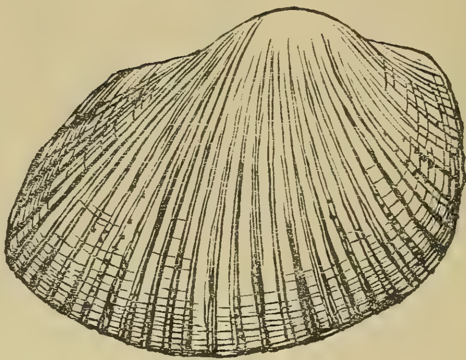
イシマテ (*Lithophaga curta* Lischke) 殼は圓筒形をなし、ヒバリガヒに類するも長形にして茸毛を缺ぎ、岩石中に穿住し、表面は栗色をなし、內面は蒼紫色を呈す、長凡二寸、本邦中部に產す。**シギノハシ** (*L. nasuta* Phil.) は長大にして長大凡四寸、帶黃色にして表面は粗糙なり、なほ本邦には他に類似の四五種を產す。

亞目　魁蛤類　Suborder **ARCACEA.**

外套緣開き、兩閉殼筋はよく發達し、心臟は二ヶの大動脉を有し、鰓は分離し、鰓絲間の連結なく、また水管を缺ぐ。

アカガヒ科　Family ARCIDÆ.

第九十九圖



アカヾヒ（原圖）$\frac{2}{5}$

殼は强き表皮を被り、外靱帶は兩殼頂間を覆ひ、蝶鉸は同形の齒の長き一列を有し、套痕明瞭なり。

アカガヒ (*Arca inflata* Rve.) 多く東海に產し、殼は長さ三四寸、脹れたる心臟形をなし、表面は暗褐色の鱗片狀表皮を被り、四十條内外の放射肋を具へ、其緣邊に齒狀の刻目を有す、蝶鉸線は直線をなし、櫛齒狀の細齒を具へ、足は長く尖りて赤色を呈し、肉は鰓と共に紫赤色にして頗る美味なり。**サルボウ** (*A. subcrenata* Lischke) はアカヾヒに類似せるも小形にして、放射肋の數少く比較的に殼の長さ短く、稍々方形に近し。**チンミ** (*A. granosa* Linné) は**ハイガヒ**とも稱し、アカガヒよりも小形にして、放射肋二十條内外に止まり、其上に結節狀突起を列す、肉の美味にして瀬戸内海及九州等には古來より多く養殖せらる。

カリガ子 (*Arca obtusa* Reeve) 形狀稍々トマヤガヒに似るも、放射脉微細にして、綠色の表皮を被り、栗色の毛を有し、內面靑白色を呈し、蝶鉸部は一直線をなし多數の細齒を有す、沿岸石垣等の間に貝絲を出して多數棲息す。

モンズリ (*Glycimeris vestitus* Dkr.) 殼質厚く、圓形に近く、放射狀をなせる淺き細溝を刻し、細毛を有せる厚き表皮は、殼緣に遺存するを常とす、蝶番には二十個內外の細齒を具へ、殼の內外共に白色にして、表面は栗色の變化に富める紋樣を有し、大抵生長線の方向に配列せられ、一樣なる濃淡の栗色を呈するもの亦少からず。

第百圖



ナミマガシハ(原圖)

亞目　波間柏類　Suborder **ANOMIACEA.**

心臟は直腸の背面に位す、大動脉は一個ありて、足小さく、前閉殼筋は極めて小さく、殼は牡蠣狀を呈し、蝶番の齒なく、右殼片を横り且つ石灰化せる貝絲によりて附着せらる。

ナミマガシハ科　Family ANOMIIDÆ.

殼質薄く、磁質にして下殼の殼頂附近に一個の深き切れ込み則ち穴ありて、之より貝絲を出して他物に着生す。

マドガヒ右殼片（原圖）$\frac{1}{2}$

第百一圖



ナミマガシハ（*Anomia cytæum* Gray）殼質薄く、光澤を有し、片殼は圓形にして脹れ、淡黄或は帶褐色を呈し、細微の皺狀放射脉を刻し、他殼は極めて薄く、反曲して殼頂附近に圓き空隙を殘し、扁平、平滑にして他物に附着す。

マドガヒ（*Placenta placenta* Linn.）殼は半透明、扁平、亞圓形にして、內外共に光澤ある雲母白色を呈し、蝶番は右殼片に八字形の長短二强齒を有し、之に對して左殼片に二溝を刻し右殼を下にして砂濱に住し、貝絲を缺ぎ、他物に附着することなし、閉殼筋痕は二重となり、中央に位するものは大形にして圓く、其前方に位するものは新月形をなして小さし、臺灣に產し、土人等は往々窓硝子に代用すと云ふ。

目　原鰓類　Order **PROTOBRANCHIATA.**

鰓絲は反曲せずして其二列は多少直角に傾斜し、足の腹面は多少扁平となり、絲線は發達せず、只一ヶの前大動脉を具へ腎臓は判然し、雌雄異體なり。

キララガヒ科　Family NUCULIDÆ.

脣瓣甚だ大きく、鰓絲の列は互に直角をなし、外套膜縁開き、水管縮小し、足は長盤狀を呈し、殼は左右相等しく卵形或は長形を呈し、內面は概して眞珠質にして、蝶番には無數の絹絲狀齒を有す。

ベツカフキララ（新稱）(*Yoldia japonica* Ads. & Rve.) 殼質脆薄半透明にして略ぼ箆頭形をなし、飴色を呈し一見幼貝に似たり、殼頂附近に淡色の一區を劃し、其境界は殆んど透明の帶をなして乳白色の內面に徹底す、蝶番の齒は多數小形にして美麗なり。

第百二圖



ベツカフキララ、(原圖)

貝類手引草　終

和名索引

アの部

イの部

ウの部

キの部

クの部

ケの部

和名索引

INDEX.

明治四拾貳年六月五日印刷
明治四拾貳年六月十日發行

正價金七十錢

著作兼發行者　京都市上京區烏丸通下長者町上ル龍前町拾四番戶　平瀨與一郎

印刷者　神戶市元町通壹丁目廿四番屋敷　菅間德次郎

印刷所　神戶市元町通壹丁目廿四番屋敷　福音印刷合資會社　神戶支店

發行所　京都市上京區蛤御門前　平瀨介舘

介類陳列場

平瀬氏賛助

舞子介類館

舞子公園

二丁西海濱

平瀬介館精撰

貝類標本

目的 當館は平瀬與一郎の主幹する所にして貝類の研究を以て聊か學術界に貢献せんと欲するにあり

標本 當館の標本は特に採集者を使用し生介を捕獲せしめしものなれば產地の精確形體の美共に幷ぶものなし

學名 當館の標本は先づ當館にて精查し後更に斯界の泰斗たる米國費府のピルスブリー博士の再調を煩はしたるものなり

價格 當館の目的により廣く全般に且研究に資せんとするものなれば出來得る限り安價ならんことを欲せり

次に標準價格を載す

標準價格

種類數	個數	一等品代價	二等品代價
五十種	一百個	七圓	五圓
百種	二百個	拾七圓	拾貳圓
二百種	四百個	參拾五圓	貳拾五圓
三百種	六百個	五拾五圓	參拾九圓
四百種	八百個	八拾圓	六拾圓
五百種	千個	百拾五圓	九拾圓
六百種	千二百個	百五拾六圓	百貳拾六圓
七百種	千四百個	貳百參圓	百六拾八圓
八百種	千六百個	貳百七拾貳圓	貳百參拾貳圓
九百種	千八百個	參百四拾貳圓	貳百九拾七圓
千種	二千個	四百參拾圓	參百七拾圓

○荷造費及遞送料等は代價の外に申受くべし
○右は標準價格を示したるものなれば珍敷もの稀れなるもの等は此限りに非ず
○一種毎に區別し收容せんが爲め陳列用の小箱を要するときは別に代價を要す
○通例標本を組となすときは海產を主とし陸產及淡水產も多少加入するものとす
○外國產貝類も需に應ずべし

京都市蛤御門前

平瀨介館

介類雜誌

本誌創刊以來旣に三年、本邦版圖に屬する各地方は勿論、韓國及び淸國產貝類をも時に應じて紹介し、旣に海陸產貝類の記載せられたるもの實に左表の如し、尙每號鮮明なる寫眞版三枚宛を挿入し、各種に就き懇切に記述したり

第一卷に於ては

ホ子ガヒ科(Muricidæ)ホラガヒ科(Tritonidæ=Aquillidæ)ナガニシ科(Fusidæ=Fasciolaridæ)テングニシ屬(Hemifusus)エゾボラ屬(Neptunea=Chrysodomus)エンザガヒ類(Hirasea, Hirasiella, Pristiloma)ヒメベッカフ類(Microcystina)及ベッカウガヒ類(Macrochlamys)の一部を

第二卷に於ては

Buccinidæ(エッチウバイ類)ヨフバイ科(Nassidæ)オニコブシ科(Turbinellidæ)ヒタチオビ科(Volutidæ)フデガヒ科(Mitridæ)ベッカフガヒ屬完了、コハクガヒ類、キビガヒ類其他ベッカフガヒ科の全部を了り

第三卷に於ては

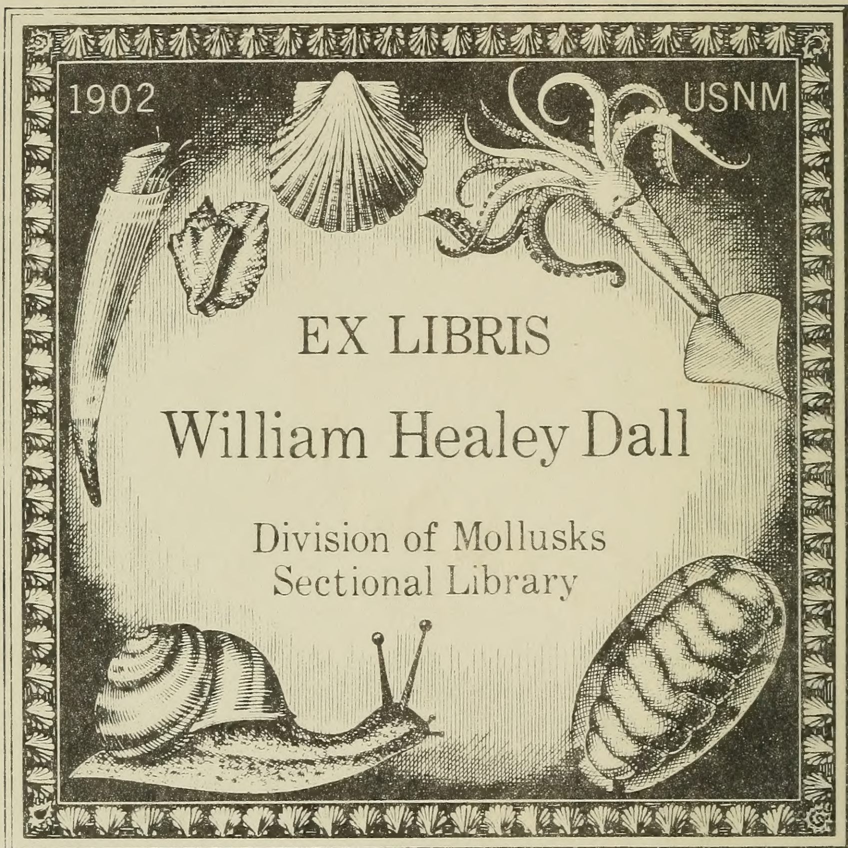
マクラガヒ科(Olividæ)ショククコウラ科(Harpidæ)コゞメガヒ科(Marginellidæ)模式フトコロガヒ類(Columbella)Endodontidæ Streptaxidæ共完了、殊に第一號第二號に亘りて岩川氏の本邦產蜆類の研究を揭げたり、其他每號岩川氏貝談漫錄は有用なる實用的介類を講述し益々佳境に入らんとす、永沼氏は國書介名考を逐號揭載、純國文にて古來の貝名研究せられたるものなれば文學者の一讀にも價す、尙一般介類學の智識及時報は愛介家の唯一侶伴たるを失はず、然るに今や不幸にして或る事情により本年四月第三卷第四號を以て一時休刊の止むを得ざるに至る、然れ𪜈來る四十三年五月よりは引續き刊行の筈にして前々に倍し一層の良誌たらんことを期す

代價　一ヶ年分　前金二圓三十錢　郵稅不要、　一部見本　郵稅共金廿一錢

因に第一卷第三號は缺號せり

京都市蛤御門前

平瀨介館


1902
USNM
EX LIBRIS
William Healey Dall
Division of Mollusks
Sectional Library